

2015年度

事業報告書



学校法人
神戸女学院

KOBE COLLEGE

日本を代表する「キリスト教主義 リベラルアーツ教育」を目指して

神戸女学院は、自由を愛し、民主的な組織運営を尊重するアメリカ・プロテスタント教会の一教派である会衆派教会の海外宣教組織「アメリカン・ボード」から派遣された二人の女性宣教師によって、1875年（明治8年）、神戸に設立されました。2015年に、創立140周年を迎えました。

高等教育機関となった神戸女学院は、1933年（昭和8年）に、現在のキャンパスである西宮市岡田山に移転いたしました。2014年9月には、岡田山キャンパスのウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計による12棟の建物が、国の重要文化財に指定されました。名称は「重要文化財 神戸女学院」です。自然や景観を含めて、岡田山キャンパスが重要文化財指定の対象になったのだと理解しています。

神戸女学院の永久標語「愛神愛隣」は、本学院の教育目標を表現しています。キリスト教を基本とする全人教育を中心に置き、獲得した知識や技術を自分のためだけでなく、社会、国家、世界のために活かせる女性を養成することが神戸女学院の教育目標です。

神戸女学院大学は教育目標として、さらに具体的に、「日本を代表するキリスト教主義リベラルアーツ女子大学」となることを掲げています。リベラルアーツ教育によって、分野横断的に、複数の視点からの学びを行い、多様な分野で活躍できる女性を育成することを目指しています。

中高部は関西における最難関校の一つと評価され、毎年、顕著な大学入学試験の実績を残しています。しかし、入試実績を公表していません。大学入試実績は、神戸女学院中高部の教育の結果であって、神戸女学院中高部教育の目的ではないと考えているからです。

中高部も大学と同様に、リベラルアーツ教育を目指しています。教室での学びだけでなく、課外活動や年間を通じての多くの学校行事を自主的に企画し運営することを通して、多彩な人間力を養成することを目指しています。

今後も神戸女学院に対しまして、皆さまのより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

学校法人 神戸女学院
理事長・院長

森 孝一



- 1 理事長メッセージ
- 3 建学の理念・教育目標／
設置学校・学部・学科等
- 4 法人の沿革

事業の概要

- 5 大学メッセージ／中高部メッセージ

大学事業

- 7 教育／研究
- 11 学習支援／学生支援
- 12 学生募集／学生活動／環境整備
- 14 高大連携／地域連携

中高部事業

- 15 教育／学習支援
- 16 生徒活動

法人事業

- 17 重要文化財／環境整備／礼拝
- 18 記念事業／寄付事業

神戸女学院基本データ

- 19 数値で見る神戸女学院
- 21 入学定員・収容定員・在籍者数
- 23 志願者数・合格者数・入学者数
- 24 留学
- 26 卒業・修了・満期退学・
博士学位授与の状況
- 27 就職・進学状況
- 29 役員・評議員／教職員
- 30 事務組織図

2015年度財務の概要

- 31 2015年度決算の概要／
事業活動収支計算書
- 34 資金収支計算書
- 36 貸借対照表
- 38 財務比率の推移

2016年度事業計画

- 39 今後の運営方針及び
2016年度事業計画
- 40 2016年度予算書

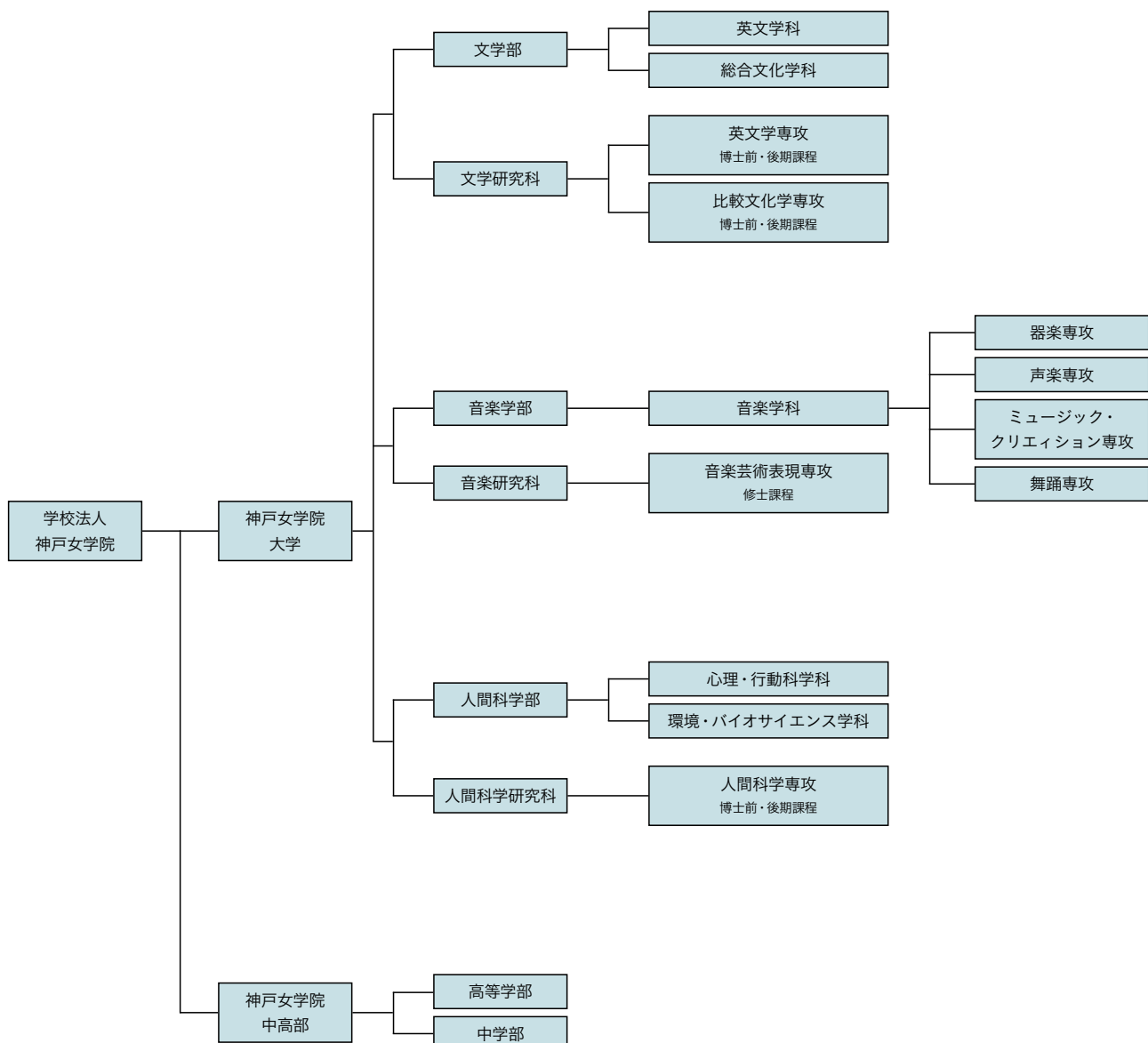
- 42 校地・校舎

建学の理念・教育目標

神戸女学院は、1875年（明治8年）、日本が近代化への一歩を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立されました。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成でした。以来、高い教養と専門的知識、広い視野と適確な判断力、さらに語学力

を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきました。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っています。

設置学校・学部・学科等



法人の沿革

1873年(明治6年)	米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、3月に来日し、10月、神戸花隈村に私塾を開く。
1875年(明治8年)	創立。山本通に女子寄宿学校を開校。「女学校」と呼ばれる。英語名はGirls' School。初代校長はタルカット、舎監はダッドレーで、当初の学生数は26名(寄宿生3名、通学生23名)。
1879年(明治12年)	校名を「英和女学校」とし、5年制の課程を定めカリキュラムを整備。
1885年(明治18年)	高等科(1年)、および校章を定める。三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、靈魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。
1891年(明治24年)	本格的な女子高等教育を開始、3年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。
1894年(明治27年)	「神戸女学院(Kobe College)」と改称。名実ともにCollege(女子高等教育機関)となる。
1906年(明治39年)	教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。
1909年(明治42年)	専門学校令により「専門部(4年制)」(当時の女子高等教育の最高水準)設置認可。
1919年(大正8年)	専門部を「大学部」と改める。予科1年・本科3年を置く。
1933年(昭和8年)	西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリズによってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部1号館、講堂・ソールチャペルを含む総務館などは当初の建物。
1948年(昭和23年)	学制改革により4年制の新制女子大学—「神戸女学院大学」が認可され、文学部(英文学科、社会学科、家政学科)を設置。
1949年(昭和24年)	新制の音楽学科を設置。1952年には音楽学部の認可を受ける。
1965年(昭和40年)	大学院文学研究科(修士課程)英文学、社会学専攻を設置。
1967年(昭和42年)	家政学科が独立して家政学部となる。
1975年(昭和50年)	創立100周年を迎える。
1976年(昭和51年)	文学部社会学科を改組して総合文化学科とする。
1980年(昭和55年)	大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科(修士課程)に日本文学専攻を設置。
1989年(平成元年)	大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。
1990年(平成2年)	音楽専攻科を設置。
1993年(平成5年)	家政学部を改組して、人間科学部人間科学科を設置(家政学部は募集停止)。
1997年(平成9年)	大学院人間科学研究科(修士課程)人間科学専攻を設置。
1999年(平成11年)	大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。
2000年(平成12年)	創立125周年を迎える。大学院に音楽研究科(修士課程)音楽芸術表現専攻を設置。また大学院文学研究科日本文学専攻を比較文化学専攻に改称。
2001年(平成13年)	東京女子大学と相互に学生交流を行う特別聴講制度を開始。
2002年(平成14年)	大学院文学研究科比較文化学専攻に博士後期課程を設置。
2004年(平成16年)	大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻に通訳コースを設置。
2005年(平成17年)	人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置(人間科学科は募集停止)。
2006年(平成18年)	音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。
2007年(平成19年)	音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエイション専攻に改組。
2013年(平成25年)	大学院文学研究科社会学専攻を廃止。
2014年(平成26年)	岡田山キャンパスの12棟の建物が、国の重要文化財に指定される。
2015年(平成27年)	創立140周年を迎える。大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻にグローバル・スタディーズコースを設置。

Message

神戸女学院大学

「140年の歴史」が育む、 世界で躍動する 女性を輩出します

神戸女学院は、昨年創立140周年を迎えました。揺るがぬ伝統と建学の精神を引き継ぎながら、次世代に向けて、世の中に貢献できる躍動感にあふれる女性を育成してゆきます。150周年に向けて、これからの10年間は非常に大切な歩みとなります。学生・教職員・同窓生のミッションステートメントの共通認識と協力体制を高め、取り組んでまいります。

2015年度は、2014年に本格スタートした共通英語教育研究センターの成果が、大幅なTOEICスコアアップなどの数字として表れ、学生たちのモチベーションも上がり、国際的な催しへの参加の機会も結びついています。

神戸女学院が掲げる 「教育の3つの柱」

①「リベラルアーツ&サイエンス」：学部
の壁を横断した科目履修（副専攻プログラム等）を学ぶ学生が増えています。②「国際理解」：提携校に米国サム・ヒューストン大学が加わり、第1回ケンブリッジ夏期語学研修も実施しました。また、長期・短期留学プログラムでは、本学から海外へは121人を派遣、海外から本学へは63人を受け入れ、活発な交流が行われました。③「キリスト教主義」：日々の礼拝に加え、礼拝形式で行われるアセンブリーアワーで、コンサート、公開講座、外部

講師による講演会等が実施されています。

大学と高校の連携強化 文科省等の評価も実施

他にも高校と大学の連携を深めるため、高校生を対象とした絵本翻訳コンクールや書評コンクールを実施しました。いずれも意欲的な作品が多数寄せられました。

また、大学基準協会による認証評価の実地調査が10月29日、30日に実施され、3月23日に適合の通知が公表されました。11月4日には文部科学省による教職課程の実地視察も行われ、問題なく実施されているとの評価をいただきました。

神戸女学院大学 学長 有藤言子



Message

神戸女学院中学部・高等学部

リベラルアーツ教育と 「自由・自治」を重視

中高部ではリベラルアーツ教育と「自由・自治」を重視し、生徒達が主体的な学びを展開し、リーダーシップやレジリエンスを遺憾なく発揮することのできる機会を提供しています。

授業や特別活動に使用する 教育環境の一層の充実

2014年度の校舎新築・改修に加え、図書室の図書管理システムの刷新や体育館の空調設置により、学習環境が一層充実しました。各教科の授業・総合学習・部活動などで有効利用され、生徒の数学・科学・哲学等のオリンピックや読書感想文・エッセイ・スポーツ

等の大会での活躍や入賞に繋がっています。

グローバル社会のリーダーを 育成する国際理解教育

8月17日から21日、第1回「女性のためのエンパワーメント・プログラム」が校内で開催され、39名の生徒が参加しました。英語のディスカッションやリサーチ、プレゼンテーションを5日間集中的に行うことにより、自分の志や夢を認知し、グローバル社会でリーダーシップをとるためのコミュニケーション力を身に着けることを目標としたプログラムです。充実した内容で、

参加者の満足度も非常に高く、大成功でした。秋には姉妹校MLC^(※)から訪日旅行団を迎え、友情を再確認する機会を持ちましたし、卒業生が勤務している在日トーゴ共和国大使館との交流も継続し、より多彩な国際交流の機会を設けています。

神戸女学院中学部・高等学部

部長 林 真理子

※ MLC / オーストラリアの由緒ある女子高等学校 Methodist Ladies' College。隔年夏休みに双方の生徒が訪問し合い、国際理解と親善を深めています。

教育

大学基準協会による大学評価の結果、適合認定を受ける

2004年度以来、日本の大学は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を7年以内の周期で受けることが義務づけられています。本学もこれに則り、2015年度に大学基準協会による認証評価を受審しました。評価は、大学の理念、教育組織や教員、教育内容・方法・成果、学生の受け入れや支援などの合計10に及ぶ基準に関して詳細に行われます。

認証評価の受審に際し、2014年度に「2014（平成26）年度神戸女学院大学自己点検・評価報告書」を作成し、大学基

準協会に提出しました。この報告書は2014年5月より大学・学院関連部署で分担執筆をし、幾度にもわたって修正を経たものです。

この「報告書」をもとに2015年10月29、30日の2日間、大学基準協会の評価委員による実地調査が行われました。その結果、「貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2023（平成35）年3月31日までとする。」との認定を受け、2016年3月23日に公表されました。



認定証

大学基準協会に提出した資料原本



教育

教育環境の充実へ 教室の整備工事を実施

良好な教育環境を維持するため、文学部2号館45室やデフォレスト記念館小教室、音楽学部合奏室等の教室整備を実施しました。

文学部2号館45室は大学では2番目の大教室として、授業や入学試験、各種ガイダンスに利用されています。1971年の竣工時に設置された机や椅子等が老朽化し、学生からも更新の要望が多く寄せられていました。机と椅子の入替や空調室内機を更新した他、床材の貼替、壁面および天井面の塗装、カーテンの取替も実施しました。

また、デフォレスト記念館の小教室6箇所においてプロジェクターとスクリーンの入替を行いました。これらの教室では授業でAV機器を利用する頻度が高いため、教員と学生の双方から高い評価を得ています。

音楽学部の教室は、音楽学部2号館ホールとジョージ・オルチン記念音楽館合奏室の照明更新工事を行いました。両室とも熱による劣化が進んでいましたが、取替にあたっては、長寿命で電気使用量の少ないLEDを採用した結果、ランニングコストの低減にもつながっています。



机と椅子の入替に合わせ、床材や壁面・天井面を塗装。床材についてはこれまでの黒系タイルからベージュ色のビニルタイルに更新した結果、教室全体が明るくなりました。



デフォレスト記念館小教室（D-201、202、203、204、205、207）のプロジェクターとスクリーンを入替。



音楽学部2号館ホールの舞台ボーダーライトをLEDに更新。従来の照明に比べ照度が大幅にアップ。

教育

書籍「日常を拓く知」シリーズを監修

シリーズ「日常を拓く知」は、大学で学び始めた人、そしてこれから大学で学ぶ全ての人に向けて、文学部総合文化学科監修のもと作られました。人文・社会系の学問は、現代の日本社会から時間的・空間的に離れた事柄を扱うことも多く、学ぶ意義や目的を見いだすことが難しい時があります。そのため、短期的で直接的な「役に立つ」学び、つまり実学的な内容や資格の取得などが重視される傾向

が強まっています。その結果、目に見える成果に追われ、自分が生きる意味について十分に考える時間が取れないまま毎日を過ごしている人もいるでしょう。

本シリーズは「学ぶこと」と「生きること」が分離しかねない今日状況に対して、それらを結びあわせる手引きでありたいという思いから創刊されました。

「知る・学ぶ」「恋する」「伝える」「食べる」「旅する」「支える」といった日常的

な営みを取り上げ、その役割や意味、歴史について考えることを第一の目的にしています。生きていく中で得られる手ざわりを手放すことなく、この世界について考えられるでしょうか。そのためどのような「考え方」が必要でしょうか。「学問」とは、実はそうした場で力を発揮するものです。本書が学問をもう一度日常の現場に連れ戻して、読者と共に考える機会になるよう願っています。

教育

高校生を対象にした「絵本翻訳コンクール」を開催

高校生に英語を学ぶ楽しさと、異文化を知ってもらうことを目指す「絵本翻訳コンクール」も第6回を迎え、全国337校から1,667作品（2014年度は266校1,689作品）の応募がありました。

2015年度の課題図書は、“The Quiet Place”。1950年代にメキシコから米国へ家族と移り住んだ少女が、未知の環境に戸惑いながら成長する姿を、手紙の訳で

どう表現するかが評価のポイントでした。

今回より「もったいないばあさん」シリーズで著名な絵本作家、真珠まりこ氏（本学家政学部卒）を審査委員長に迎え、田辺希久子英文学科教授、豊倉省子非常勤講師の審査では、ハイレベルな作品の中から、優秀賞に北海道札幌旭丘高校と嵯峨野高校（京都）、佳作に川越女子高校（埼玉）、京都共栄学園高校、福岡市立福

岡女子高校のチーム・個人が選ばれました。11月21日、めじらウヅにて表彰式を開催。優秀賞の2組へ、翻訳した作品を製本した「世界に一冊だけの私の絵本」を授与、朗読していただきました。

本コンクールが、本学と高校の継続的な交流の場となっています。本学の英語教育の認知度を高める有効な施策であり、継続していきたいと考えています。

教育

リベラルアーツを具現化した音楽学部各公演

11月29日、兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホールにて音楽学部定期演奏会を開催。幕開けは、山口英樹講師の指揮による女声合唱。続く合同ステージでは、他学科の学生や留学生も加わり「くちびるに歌を」を歌い、前半を終えました。後半は「魔笛」序曲で始まり、続くラヴェル「ピアノ協奏曲」では、学内オーディションで選ばれた大学院生が登場。最後は中村健教授指揮による「青少年のための管弦楽入門」。英文ナレーションは、中村昌弘英文学科准教授の指導を受けた音楽学部生2名が担当しました。情

熱的なピアノとともに、リベラルアーツを具現した力強いステージとなりました。

12月10日から12日には本学エミリー・ブラウン記念館の舞踊専攻スタジオにて、第7回舞踊専攻卒業公演を行いました。島崎徹教授の作品を含め、各教員が振り付けを担当し、それぞれの個性が活かされた公演となりました。当日演じられた5作品のうち4作品が新作ということで、学生・教員双方にとって大きなチャレンジでしたが、4年生のチームワークの良さや後輩達のサポートもあり、無事に3日間計4公演を踊りきることがで



上：「プリテン：青少年のための管弦楽入門」 右：振付担当教員の個性が活かされた舞踊公演。



きました。当日来場された西宮市長の今村岳司様からも、温かいお言葉をいただきました。

教育

「国際理解」の精神育成へ。欧米やアジア圏との協定先開拓、留学生受入を推進

本学の教育の3柱の1つ「国際理解」の精神の涵養に向け、2015年度も海外協定大学への派遣と学内における国際交流の創出に取り組んできました。海外派遣では、前年度に引き続き欧米における協定先開拓に臨み、本学にとってはアメリカで初となる南部、テキサス州にあるサムヒューストン州立大学と大学間協定並びに交換留学協定を締結いたしました。

また、留学生の受入では、特にアジア圏に注力し、中国の協定先である広東外語外貿大学から3名（従来は1名）の交換留学生を迎え入れました。同大学については、11月に50周年式典に参列し、同時に同大学を会場に開催されたAUPF（Asian University Presidents Forum）に出席、アジア他世界各地域からの大学関係者と面談する機会を得ました。今後アジア圏における大学とのさらなる提携を進

めます。

2014年度に大学間協定を締結し、2015年度から募集を開始したケンブリッジ大学での夏期語学研修には定員の15名が応募、また同年より開始した中期海外研修のカナダ・ヨーク大学には9名の学生が参加し、全員が無事帰国、充実した研修となった旨の報告がなされました。また、認定留学制度では、2014年度より運用を始めたJSAF（日本スタディ・アブロード・ファンデーション）を利用して、2015年度は2名の学生が、アメリカのモンタナ大学とカリフォルニア州立大学フラトン校に留学しました。

学内における国際交流では、2014年度は中止された中国語夏期集中研修を9月に実施し、参加者のうち1名が中国への派遣留学生に選ばれました。また、12月には留学に必要な英語検定試験の1つで

あるIELTSを学内で初めて実施し、受験者の半数が2016年度の留学に応募、選考されました。IELTSには、ネイティブスピーカーとの面接試験が含まれており、留学に必要なスピーキング能力が測れることから、国際交流センターとしても引き続き取り組んでいきたいと考えています。

また、毎週金曜日のアセンブリーアワーでは、10月に派遣留学生の報告会を行い、2014年度に本学として初の派遣となった3つの大学、イーストアングリア大学（イギリス）、アサンプシオン大学（フィリピン）及びポーリンググリーン大学（アメリカ）へ留学した各学生から貴重な体験が語られました。今後も国際交流センターでは、より充実した国際交流プログラムを提供し、学生達が「国際理解の精神」を体得できるよう国際交流事業を推進してまいります。

研究

「初期神戸女学院」のテキストを出版

授業「初期神戸女学院」のテキストとして、津上智実編『山本通時代の神戸女学院、黎明期の女子教育とその歩み』（日本キリスト教団出版局、2015年9月5日発行、96頁）を出版しました。共通科目「初期神戸女学院」は、本学の成立と、初期の教育の歩みを、根幹となる「キリスト教教育」、それを支える両輪としての「英語教育」と「音楽教育」、成果の現れである「卒業生の活躍」の4つを軸に、オムニバス形式で講じる半期の授業です。

本学の基礎知識の小冊子作成をという2014年7月の史料室運営委員会の提議を受けて、同年秋に「初期神戸女学院」の担当者と本書の構成や内容について協議しました。その結果、第1章：キリスト教主義教育の礎（飯謙）、第2章：初期の英語教育（原田園子）、第3章：初期の音楽教育（津上智実）、第4章：初期の体

育教育（谷祝子、井上紀子）、第5章：初期の卒業生とめぐみ会（佐伯裕加恵、小澤妙子）という章立てとし、さらに学習者の便宜を考えて、「神戸女学院の概略史」「神戸女学院略年表」の2つの付録（佐伯裕加恵作成）と「資料：1906（明治39）年の学科表」を巻末に添えました。

記述の内容を生き生きと感じて理解してほしいと願い、写真を多数（計51点）掲載しました。今回、本学図書館を調査して、宣教師文書で言及されている明治期の教科書類を多数見出したので、その写真も収録しました。出版社と編集担当者の協力で求めやすい価格設定（1000円＋税）となりました。

神戸女学院創立140周年の記念の年に出版された本書が、常に出発点を振り返りつつ、行くべき未来を構想するための一助となることを願っています。

テキスト『山本通時代の神戸女学院、黎明期の女子教育とその歩み』の表紙（装幀：岩崎邦好）。



同書の本文の一例（第2章の冒頭部分）。上部の余白に注や写真類を掲載しています。

研究

神戸女学院発『美容式®アミノ酸ゼリー』を商品化

人間科学部環境・バイオサイエンス学科の高岡素子ゼミと、アミノ酸研究の第一人者である大谷勝氏（東大大学院特任教授（前））とのコラボレーションにより、神戸女学院発『美容式®アミノ酸ゼリー』を商品化しました。

高岡教授と大谷勝氏は、2004年度より「アミノ酸の機能性」について共同研究を続けており、数多くの研究成果を国内

外の学会において報告しています。それらの研究結果に基づき、ゼリー1個に肌状態を改善するアミノ酸8種類、合計220mgを添加しました。また、果汁や糖などの原材料についても、品質の高い国産材料にこだわり、味に妥協することなく、みんながおいしいと思えるまで試作を重ねました。「おいしく食べて、そして美しく」を目的にした商品です。



自家製ハチミツを使用

原材料に使用されているハチミツは、人間科学部の遠藤知二教授が環境問題や生態系の仕組みを研究するために、理学館の屋上で飼育しているセイヨウミツバチから採集した自家製ハチミツです。

国産材料へのこだわり

リンゴゼリーは国産のリンゴ果汁100%です。レモンジンジャーゼリーは愛媛県などの国産レモン果汁を配合、甘味料としてはビート糖と神戸女学院の自家製ハチミツを配合しました。



理学館屋上でのハチミツ採取



開発に携った学生たちと

学生が商品開発に参加

ゼミ生たちは、「何を商品化するべきか」から話し合いを始めました。ゼリーに決定後は、味や食感について評価を重ね、パッケージにもこだわりました。「女学院らしさ」を意識しながら、学生らしく自由で華やいだ雰囲気の中商品開発を進めました。

研究

親子相互交流療法 (PCIT) について

親子相互交流療法 (PCIT) とは“コーチング”を通して親が子と遊びながら「適切な親子関係構築」と「幼児の問題行動改善」方法を学ぶ新しい心理療法です。西日本では本学が初めて心理相談室に導入し高い効果を挙げています。2015年度

は心理相談室の全相談回数 (1041回) の1割がPCITでした。女子大という環境を活かし、学部授業にもPCITの心理教育を取り入れています。また、大学院でのPCITセラピスト資格取得の準備も進めています。



PCIT実施風景

学習支援

学生が利用する場を対象に 無線LAN環境を整備

キャンパスの学内LANを無線（Wi-Fi）経由で利用できる環境を2014年度から2016年度まで3年をかけて整備しています。2015年度は、ラウンジなどを中心に社交館、新社交館、ジョージ・オルチン記念音楽館、文学部1号館、文学部2号館の整備を進めました。対象エリアは教室やラウンジなど学生の利用する場所であり、2015年度に整備した校舎ではほぼ全ての場所で無線LANが利用可能になりました。大学所有のパソコンなど学内LAN（KC-NET）に登録された機器での利用はもちろん、スマートフォンなど学生や教職員が所有する機器でも学内の認証システムに登録されたユーザーは誰でも利用できる環境です。2014年度に整備されたデフォレスト記念館、文学館、理学館を含む多くの教室が無線LANの提供エリアとなりました。まだ全ての校舎の無線化は実現できていませんが、2016年度には残りの校舎の音楽学部1号館、2号館、エミリー・ブラウン記念館、ジュリア・ダッドレー記念館を整備し、全教室の無線化が完了する予定です。なお、2015年度の無線LANの整備では、2014年度と同様に文部科学省の「私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費」により半額の補助を受けました。

学習支援

図書館に貴重書庫を設置 設備機器の更新も継続

図書館では2件の事業を実施しました。

まず図書館本館には、明治初期讃美歌関係史料（オルチン・コレクション）など、本学所蔵の貴重資料の劣化を防ぎ、末永い活用を可能とする貴重書庫を設置。設置にあたり、KCC-JEE、公益社団法人神戸女学院めぐみ会および同会会員の皆様からのご芳志を賜り、計画開始より3年で設置が実現しました。図書館本館事務室約41㎡を改装した耐火・調湿構造の書庫には耐震性の高い書架を置き、貴重資料を常に良好な環境下で安全に保管できることになりました。

また、建築後30年を経て老朽化が進んだ図書館新館の設備機器更新を、2014年度からの継続事業として行い、書庫内の除湿機7台（うち2台は本館書庫分）および、資料に付した検知信号を貸出・返却時に入力・消去するブックベリファイヤー2台を、新型の機種に入れ替えました。除湿機の更新により、カビの発生を抑えて資料の状態をよりよく保ち、新型のブックベリファイヤー導入により、資料管理上の不具合減少が期待できます。図書館業務の効率化とサービスのさらなる向上が実現できました。

学生支援

奨学金制度が充実 授業料減免制度も整備

奨学金制度「HAS給与奨学金」を新たに制定しました。日本学生支援機構第一種奨学金を受領しており、それをもってしても学費の納入が困難な母子家庭、あるいは父母共にないない2年次以上の学部生に、授業料相当額が給付される奨学金制度で、2015年度は9名の学生が対象となりました。

授業料減免に関する制度についても「東日本大震災被災地域出身者対象授業料免除制度」等、継続して整備しています。

また入学試験の成績優秀者が給与対象となる「入学試験成績優秀者給与奨学金」は26名（過年度からの継続受給者を含む）が給付を受けました。

学生が安心して学業に専念できるよう、今後も奨学金制度を充実させてまいります。

学生支援

就職活動支援プログラムを 約130回実施

2016年3月卒業生の就職活動は、企業の採用活動スケジュールの大幅な後ろ倒しのため、混乱の中、長期化しましたが、各企業の採用意欲は高く、学生の売り手市場という点では悪い環境ではありませんでした。就職率は98%とリーマンショック前の水準に戻り、就職希望率は86.2%、就職決定先が第一希望群との回答も80%を超え、就職への意欲、決定先への満足度も向上。キャリアセンターでは、学生が適性と希望に合った進路を得るために、学ぶ場・知る場を数多く提供することを目標に、2015年度も約130回のプログラムを実施。中でも2017年3月卒業生を対象として2月・3月に行った企業セミナーには、過去最多となる延べ150社の参加が得られ、学生に優良企業を幅広く紹介する機会となりました。

学生支援

障がいをもつ学生への サポート体制を整備

学生生活支援センター、学生主事会、学生支援ネットワーク、各所属学科等の関係部署が当該学生と相談の上、学生部が中心となり、障がい者へ個別に支援を実施。入学試験時の支援、正課授業における車いす移動可能教室への変更、席の確保等、学生の障がいに応じた支援を行いました。

また2015年度より、聴覚障がい学生に対するノートテイクによる支援を開始。コーディネーターの職員1名を中心に、約55名の学生が、聴覚障がい学生に対し、要約筆記による情報保障の支援を行い、一部の授業では音声文字変換ソフトも利用しました。その他、障がいを理解し差別の解消の推進に向けて、教職員に対する研修を行いました。

学生募集

志願者増に向けて情報発信を強化、学外試験場新設

2016年度入試の募集広報においては①入学試験成績優秀者給与奨学金制度、②充実したキャリアサポート、の周知に力を入れました。また、中四国地区からの志願者増加のために広島・高松に学外試験場を新設しました。

さらに、岡山・高松（+広島の一部）地区を対象として「お天気フィラー」を初めて出稿したほか、例年通り高校への訪問活動や模擬講義・分野別説明会・進学相談会や、本学での高校生対象のキャンパス見学会等を実施しました。

神戸女学院の魅力が高校生をはじめ保護者や高校教員等へ的確に伝えることで志願へと繋げるべく地道な努力を重ねました。



左：在学生とのフリートークコーナーは学生と気軽に話ができるので大変人気があります。
上：100人を超える学生スタッフがオープンキャンパスを盛り上げています。

施策1：体験型のオープンキャンパス

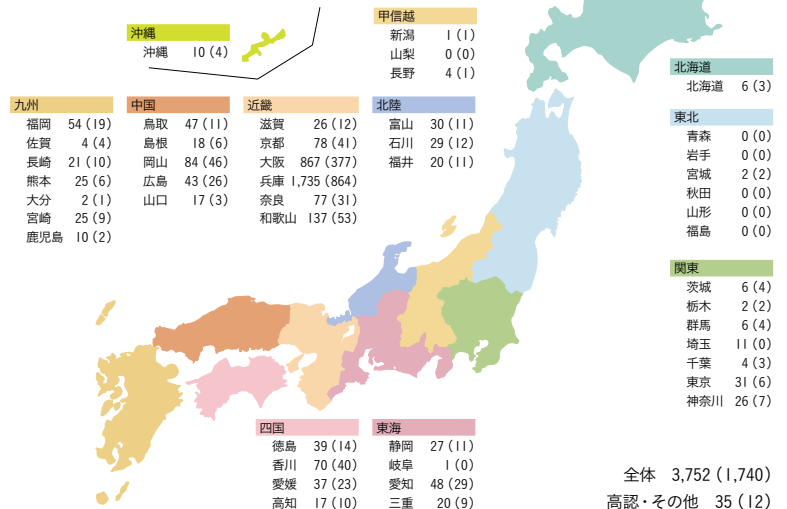
年間6回のオープンキャンパスでは模擬講義など本学での学びを体験してもらうとともに、多くの高校生・受験生に「芸術的な環境空間は優れた人格を形成する（W.M.ヴォーリズ）」という理念を実感してほしいと願っています。

施策2：学生スタッフの礼儀正しい対応

これまで^{あまた}数多の受験生・在学生がオープンキャンパスなどの際の学生スタッフの礼儀正しく爽やかな対応に魅了されて本学に志願・入学してきました。「愛神愛隣」を体現するような存在です。

2016年度入試 都道府県別志願者数・合格者数

※推薦入試を含む延べ人数 志願者数(合格者数)



学生活動

フィリピンでファッションショー「DEAR ME」開催

8月と2月に文学部総合文化学科の学生5名がフィリピンのマニラで「DEAR ME」と題されたファッションショーを開催しました。モデルを務めたのは、貧困地域に暮らす子どもたちです。過酷な生活を強いられている子どもたちに、オシャレをしてランウェイを歩きながら将来の自分の姿や夢を描いてもらいたい、という思いを込めたイベントでした。マニラ市立大学が会場で、当日は20人の子

どもが参加し、800人を超える観客にお越しいただきました。

ただ、決して簡単な道のりだったわけではありません。学生達は自分たちで企画書を起し、企業やNPOへ協力を仰ぎ、実際にイベント開催まで実現させました。本学の愛神愛隣の精神とリベラルアーツ&サイエンスを率先して体現してくれたような、バイタリティと思いやりにも満たす素晴らしい取り組みです。



笑顔が溢れる会場での集合写真。ショーの後、衣装とは別に、子どもたちに洋服が寄付されました。

学生活動

優秀な実績をおさめた学生の課外活動を表彰する「大学クローバー賞」

本学では、学生の課外活動を推奨することを目的とし、顕著な活動あるいは、優秀な成績をおさめた団体の栄誉を称えて、「大学クローバー賞」を設けています。連絡協議会委員並びに大学学生自治会委員の投票により選考されます。2015年度はそれぞれの団体が、学内外で精力的に活動していることが評価され、ラクロス部、ISA、スカッシュラケット部、コーラス部、学生YMCA、クラシックギター部の6団体が選出されました。

大学クローバー賞受賞団体の実績

- 【ラクロス部】
第26回関西学生ラクロスリーグ戦出場
- 【ISA】第61回国際学生会議参加
- 【スカッシュラケット部】
第43回全日本スカッシュ選手権大会出場
- 【コーラス部】第56回定期演奏会開催
- 【学生YMCA】
東日本大震災復興支援ボランティア参加
- 【クラシックギター部】
第48回定期演奏会開催



斉藤学長より表彰を受ける学生YMCA。

環境整備

利便性や快適性向上のための環境を整備

学生がキャンパスでより快適な学生生活を送ることができるよう、2015年度も様々な環境整備を行いました。

- ①2015年度の事業計画により、学内にコンビニエンスストア「セブン-イレブン AIM神戸女学院大学店」を設置しました。開店にあたっては大学学生自治会が立ち上げた「プロジェクト7」の学生たちが、女子大生の視点からの提案を行い、アイデアが店づくりに生かされました。
- ②学生寮の全個室（179室）分のチェストと椅子の取替を行いました。竣工以来使用してきたことで家具の傷みが激しく、取替実施により快適な寮生活を確保しました。
- ③1971年の竣工時より使用されてきた文学

部2号館1階トイレを改装しました。トイレ全体の面積を拡張し、ブース数を増やすとともに各ブース面積も広げた他、和便器から洋便器への取替を行いました。また洗面台をカウンター形式に変更し、パウダースペースも設置した結果、利便性が大幅に向上しました。

④学生の使用頻度の高いミリアム館浴室は、老朽化が進み、経年劣化による不具合が多かったことやシャワーブース数の少なさも課題となっていたため、全面改修を実施。学生のシャワー利用頻度が増えていることから、シャワーブース数を従来の倍に増やすなど、利便性にも配慮。改修後は利用する学生・生徒からも好評を得ています。



寮の家具更新

特に傷みが激しいチェストと椅子の更新を全室行いました。



文学部2号館にセブン-イレブン設置

「セブン-イレブン」が文学部2号館1階に開店しました。女子大学内への出店は2校目のことです。キャンパスアメニティ向上の目玉として、学生に親しまれる存在になることを願っています。
(2016年4月5日開店)

文学部2号館トイレ

学生からの要望も踏まえパウダースペースを3面設置。パウダースペースの横には全面鏡も取り付け、使い勝手も大幅に向上しました。



ミリアム館浴室

シャワーブースの数を倍に増やすなど時代に沿った改修を行い利便性にも配慮しました。

高大連携

高大連携の新たな試み「書評コンテスト」「サイエンス・キャンプ」を実施

高大連携の一環として、これまでも出張講義、高校生招聘プログラム、本学での体験プログラム等、様々な取り組みを実施してきました。2015年度は新たな試みとして、「書評コンテスト」と「サイエンス・キャンプ」を実施しました。

「書評コンテスト」は、本学が高大連携協定を結んでいる高校の生徒を対象に実施し、本学が学生のために選定している「神戸女学院の100冊」を課題として書評を書いてもらいました。結果として69

作品の応募があり、その中から優秀賞2点と佳作3点を選び、本学にて表彰式を行いました。また、応募作品については、全てに本学の教員によるコメントを付記して返却しました。

「サイエンス・キャンプ」は、同じく高大連携協定を結んでいる高校の理系コースに学ぶ生徒を対象に、高校で履修している化学や物理が、大学の研究の基礎としていかに重要であるかを実感してもらうことを目的に、環境・バイオサイエン

ス学科主催で実施しました。13名の生徒が参加し、本学に宿泊しながら1泊2日のスケジュールで実験に取り組んでもらいました。また、環境・バイオサイエンス学科に在籍する本学学生も一緒に宿泊し、自由時間には理系学科で学ぶ楽しさや大学生活について等、様々な話をする機会を持ちました。

本学ではこれからも、大学で学ぶ楽しさを高校生に伝えられるような高大連携のプログラムを推進していきます。



書評コンテストの受賞者を招いての表彰式。高校生からは、書評を書く難しさや面白さが語られました。



サイエンス・キャンプの様子。教員の指導と学生のサポートを受けながら、真剣な面持ちで実験に取り組む高校生たち。

地域連携

教育研究の成果を活かし地域貢献

2015年度もさまざまな形で社会貢献の取り組みを行い、教育研究の成果を地域に還元しています。

長年続けられている催しも多く、「公開講座」、「金曜日公開プログラム」、大学研究所や女性学インスティテュート主催の講演会や演奏会などがあります。

音楽学部のコンサートとしては定期演奏会のほかに、宝塚市文化財団と共催の「ベガにオーケストラがやって来た！」も市民に好評を博しています。また、「音楽によるアウトリーチ」として、子どもたちに音楽体験の場を提供しています。

「地域創りリーダー養成プログラム」では、受講学生が地域の人々と協力して、地域の問題解決を目指して活動しています。

人間科学部の心理相談室は、地域住民の相談に応えながら、臨床心理士養成の場となっています。

文学部では英語の教職課程履修者が地域の小学校で英語教育活動を行っています。また、国際交流センターでは、本学に受け入れている留学生を小学校での文化交流、日本語スピーチコンテスト、神社の祭りに参加させるなど地域に国際理解の機会を提供しています。

本学主催の主な催し	開催回数／ 延べ参加者数
春季公開講座「こどもとつながる」、 秋季公開講座「戦後70年」	5回／ 574名
大学研究所主催 演奏会、講演会	2回／ 300名
女性学インスティテュート主催 特別講演会、連続セミナー	5回／ 143名
金曜日公開プログラム	14回／ 1730名
音楽学部主催 「定期演奏会」 「子供のためのコンサート・シリーズ」 「舞踊公演」ほか	16回／ 5225名
人間科学部 心理相談室主催 講演会、シンポジウム	3回／ 193名
人間科学部 体験プログラム サイエンス体験、こどもサイエンス 体験、理学館体験ほか	11回／ 229名

教育

熱中症対策として 第二体育館の空調を整備

生徒の熱中症対策のため、第二体育館の空調設備を整備しました。懸念されたバドミントンでの風の影響も殆ど気になりません。コート両面にスイッチがあり、場面に応じて半面だけ動かし効率的に使うこともできる設計なので、光熱費の節約も可能です。現場の教員からは、学校生活の基本として、安心して授業やクラブ活動を体育館で行う事ができると評価されています。



教育

グローバル社会で役立つ エンパワーメント・プログラム

8月17日から5日間、毎日9時から15時、ヴァージニア・クラークソン記念館3Fトリニティホールにて、J2、J3、S1の39名を対象に、株式会社アイエスエイの企画による「女性のためのエンパワーメント・プログラム」を開催しました。アメリカ東部の名門女子大生10名をリーダーとして招き、少人数グループに分かれて英語で話し合い、発表するプログラムです。

今回、初めての開催でしたが、将来国際社会で活躍する女性に役立つ語学力、思考力、発表力を磨く良い機会となりました。2016年度も継続が決定しています。



教育

AFS留学生の 受入れを実施

本年度は、2学期になって、AFSセメスター・プログラム生（9月から2月上旬）を受け入れることになり、アメリカ合衆国バージニア州より1名がS2の学年に編入しました。ドイツ語が堪能ですが、日本語を習うのは初めてで、来日以来一生懸命勉強に励んでいました。サッカーやラグビー、テコンドーが好きで、クラブはフットサル部に入っていました。10月には北九州方面への修学旅行に参加し、友人たちと楽しい5日間を過ごしました。2月上旬まであつという間でしたが、日系アメリカ人のお父さんのルーツである日本文化を、存分に味わってもらう良い機会になった事を願っています。



学習支援

放送設備の入替と放送室、応接室への改装と 図書室の蔵書管理システムのリニューアル

20年以上経過して老朽化していた放送基本設備を、日々の放送業務の運用および緊急放送の安定性の確保のために総入替を行いました。それに合わせて放送室の改装を実施、また慢性的に部屋不足の状態がある中、少しの空きスペースを改装する事により、日々の面談や接客等の対応場所の確保を実現しました。

一方、4月には中高部図書室にて蔵書管理システム（OPAC）のリニューアルをしました。今回のリニューアルでは、バーコードだけでなく、元のシステムで使っていたOCRも読み取れるようにし、

既存のOCRラベルは残しつつ、新しく登録するものは順次バーコードに切り替えています。学内LANに接続したパソコンでの蔵書検索が可能になったこと、書誌データの登録項目が増加したことにより、探究（総合学習）などの調べ学習がしやすい環境を整備できました。また、図書データ登録がバーコードで簡単に処理できるようになり、新着図書の配架までの期間短縮を図ることができました。今後は、このシステムを活かしてより利用しやすく、本に親しめる図書室を提供できるようにいたします。



左：空きスペースを改装し確保した応接室。
右：放送室の整備を行いました。生徒の利用頻度が高く理想的な環境を提供しました。

生徒活動

全国大会、国際大会で中高部生徒が健闘

2015年度の中高部の生徒活動は、学校公認の有志団体による全国大会、国際大会での活躍が顕著でした。その結果、兵庫県知事から県下の私立中学・高等学校生徒に授与されるマロニエ賞(全国1位、世界3位以内)を数学甲子園・ヨーロッ

パ女子数学オリンピック・書道の分野で7名の生徒が受賞しました。

また、例年のように英語スピーチコンテストや書道、テニス部等の活躍も顕著でした。

近年は多くの学校が試合やコンクール

に積極的に取り組んでおり、生徒・教師・学校が一丸となって行うマネジメント力が問われます。中高部でも、限られた練習時間の中で効率的に成果をあげることができるよう、ハード面やソフト面での強化をしています。



国際哲学 オリンピック選考会で グランプリを受賞

「2015 国際哲学オリンピック選考会」で、グランプリを受賞し、エストニアで行われた「第23回国際哲学オリンピック」に日本代表として出場しました(S3生)。

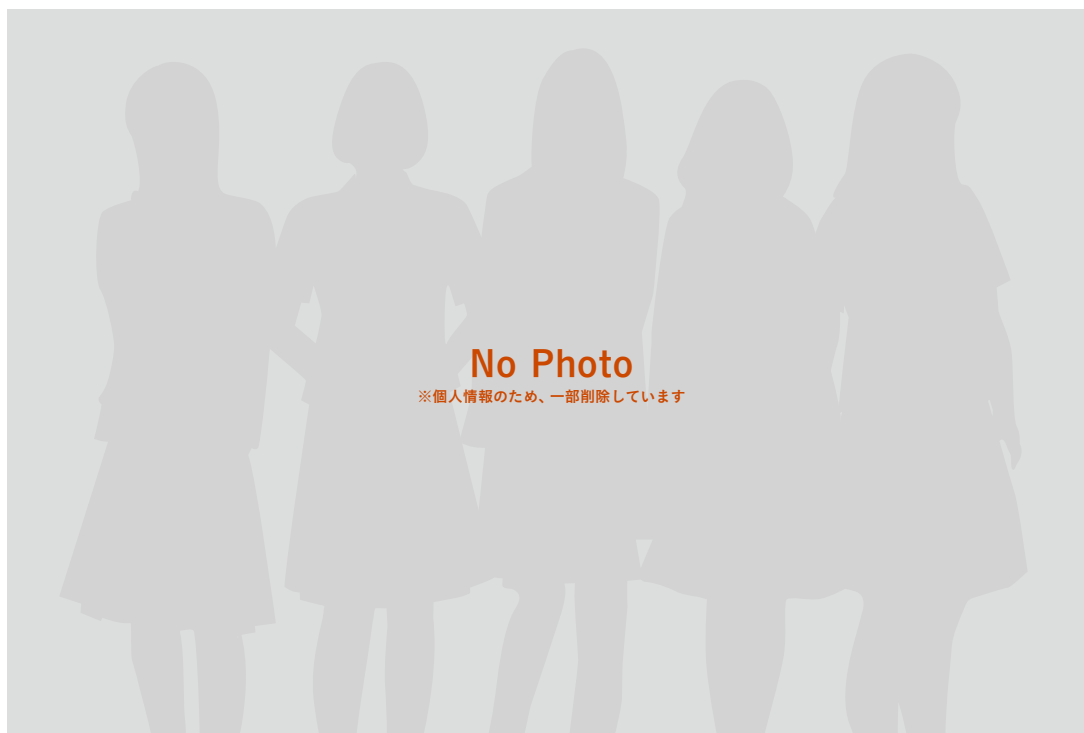


ヨーロッパ女子数学 オリンピックで銅メダル

ベラルーシで行われた「2015 ヨーロッパ女子数学オリンピック(EGMO大会)」の日本代表選手の一人として出場し、個人としては銅メダルを受賞、日本は総合第8位の成績を取めました(S2生)。

全日本高校模擬国連大会 で優秀賞を受賞

「第9回全日本高校模擬国連大会」で、優秀賞を受賞し、他校のチームメンバーとともに、2016年にニューヨークで開催される高校模擬国連国際大会に日本代表団として派遣されることになりました(S1生・S2生)。



数学甲子園で 本学のチームが 優勝

「数学甲子園2015(第8回全国数学選手権大会)」に、高校2年生5名からなるPrimeチームが出場し、優勝しました。メンバー全員が女性のチームとしては、初の優勝となります。Primeチームのメンバーは中学3年生のときから3年連続参加、念願の優勝を成し遂げました。

重要文化財

重要文化財に指定された校舎の見学ツアー開催

2014年9月に岡田山キャンパスに現存する創建時のヴォーリズ建築12棟が、「重要文化財 神戸女学院」という名称で国の重要文化財に指定されました。重要文化財は公開が原則とされていますが、キャンパスの立地上、本学院外周の道路から重要文化財を直接に望見できないことや、重要文化財が日常的な教育活動や宗教活動を展開する場であることを考慮して、指定以来一般公開日を設けています。

2015年度は、8日間の一般公開日に、各日2回の見学ツアーを実施し、延べ392人の参加がありました。また、各種関係団体からの申込みによる見学ツアーも20回あまり開催され、600人以上の参加がありました。

こうした見学ツアーの案内役を担っているのが、学生ツアー・マイスターです。2014年5月の重要文化財指定の答申を受けて、同年6月から学生への啓発活動の一環として、見学ツアーのガイドを担当する学生ツアー・マイスター養成講座を開催することになりました。所定の講座を受講すると、ツアー・マイスターに認定されます。ガイドとしてデビューした当初は配布した台本を読んでいるのが、慣れてくるとそれぞれに工夫した自前の台本を作成し、新しい発見を加えて、その学生ならではの個性を活かした案内ができるようになります。見学者の方たちからも、学生たちの母校への思いが伝わる案内がよいですねとご好評をいただい

ています。2015年10月10日に開催された創立140周年記念行事の際には、受付や案内係としても活躍し、記念行事遂行に貢献しました。

授業やクラブ活動、就職活動などもあり、講座を受講してもツアー・マイスターとして活動することが難しい学生もいますが、そんな学生たちにとっても総務館の屋上など、講座参加者ならではの場所を実際に巡る体験をすることは、学生時代のよい思い出になっているようです。



養成講座に参加する学生たちに人気の総務館屋上から眺める中庭。

環境整備

南西斜面崩壊対策のため
法面保護工事を実施

キャンパス敷地南西部分の斜面については、急傾斜地の崩壊が危惧される場所として、土砂災害防止法に基づき土砂災害警戒区域に指定されています。土砂崩れを未然に防ぎ、近隣住民の安全の確保を図るため、法面保護工事を行いました。工事に際しては、様々な工法を比較検討した結果、耐久性に優れたフリーフレーム工法を採用しました。今後も土砂崩れのおそれがある箇所を発見した際は今回と同様、早急に対策を講じ、土砂崩れの未然防止に努めていきます。



耐久性に優れたフリーフレーム工法を採用した法面保護工事。

環境整備

岡田山ロッジのトイレ改修と外壁塗装

クラブ室や合宿施設として利用される岡田山ロッジは、竣工後60年が経ち、各所が老朽化していることから、2階・3階のトイレ改修および外壁塗装を行いました。



礼拝

学院クリスマス礼拝の開催

学院全体でまもられる公開クリスマス礼拝は2015年度で43年目をむかえ、約600人の来場者で満席となりました。皆様からのクリスマス献金は各施設・団体へお届けしました。



記念事業

創立140周年記念愛校バザーを開催

5月23日、学院の「創立140周年記念」として愛校バザーを開催しました。同窓生、PTA、学生・生徒、教職員が共に協力して1日さわやかな汗を流しました。バザーでの収益金は公益社団法人神戸女学院めぐみ会を通じ、教育基金や学生・生徒の活動補助費として学院に寄付され、また学院からは福祉施設等への寄付を行いました。



藤棚の臨時食堂や大テントの売店などで、友達や家族連れなど親しい交わりの輪が広がり、それぞれにバザーを楽しまれる当日の風景。

寄付事業

「神戸女学院古本募金」を開始

神戸女学院教育振興会では、12月18日より「神戸女学院古本募金」を開始しました。古本募金とは、在学生・保護者・卒業生・教職員等からご提供いただいた書籍ならびにDVD等をリサイクル業者が買取り、神戸女学院が寄付金として受領する仕組みです。用途については「学生生徒の奨学金の充実」のための基金に充当する予定です。

多くの方々のご芳志をお待ちしております。



学内設置の回収ボックスに投入するほか、自宅等に集荷（5冊以上で無料）も可能となっており、気軽にご参加いただけます。

記念事業

創立140周年記念行事を挙行

神戸女学院が1875年10月に神戸山本通に創立されてから140年となることを記念して10月10日に「創立140周年記念行事」を挙行しました。

当日は天候にも恵まれ、約550名の方にご来場いただきました。

10時から講堂で記念礼拝の後、卒業生で作家の玉岡かおる氏による記念講演会が行われ、終了後にはサイン会もお引き受けいただきました。

お昼を挟んでエミリー・ブラウン記念館めじらウンジでは、レクチャー・コンサート「スクエア・ピアノで聴く明治期神戸の演奏曲」が開催されました。本コンサートでは、津上智実音楽学部教授の解説のもと、4名の音楽研究科大学院生による演奏が行われました。

また、図書館本館と文学館で記念展示が行われ、多くの方にご参加いただきました。

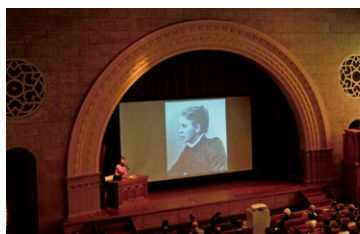
同日に行われたキャンパス・ツアーも盛況で、16名の学生ツアー・マイスターがご案内役を務めました。

創立140周年記念展示

- ・図書館本館「神戸女学院で学んだ作家たち」
- ・大学卒業論文ポスター展示
- ・大学 写真部・美術部展示
- ・中高部元教諭（絵画：小川英紀先生、書：山根勇先生、写真：大川徹先生）による展示



齊藤学長による記念歌の独唱の後、森孝一理事長・院長は式辞において、140年の歴史の要所を振り返るとともに、将来に向けての決意を述べました。



本学院140年の歴史を、ゆかりの方々を中心に錦絵や写真などスライドを用いて講演。神戸山本通から岡田山へとキャンパスの変遷を交えたお話となりました。（スライドはグッドレー先生）



エミリー・ブラウン記念館めじらウンジで開催のレクチャー・コンサート「スクエア・ピアノで聴く明治期神戸の演奏曲」演奏の大学院生。

数値で見る神戸女学院

2015年

3,467人

大学院
70人

高等学部
411人

大学
2,567人

中学部
419人

神戸女学院全体の学生・生徒数

大学院生、大学生、中高部生の合わせて3,467人の学生・生徒たちが神戸女学院の岡田山キャンパスで学んでいます。

詳しくはP.21へ▶▶▶



2015年で、創立

140周年



神戸女学院の歴史

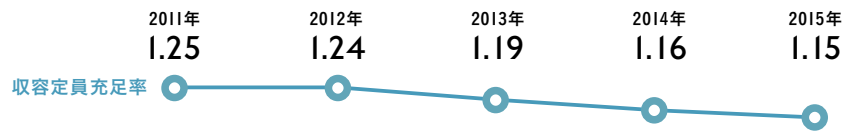
1875年、2人の女性宣教師が神戸に開いた小さな私塾が神戸女学院の原点。それから140年、変わらぬ理念と伸びやかな校風はよき伝統として継承されています。

詳しくはP.4へ▶▶▶

大学の収容定員充足率の推移

大学における定員充足率を適切に保ち、教育の質を保証しています。

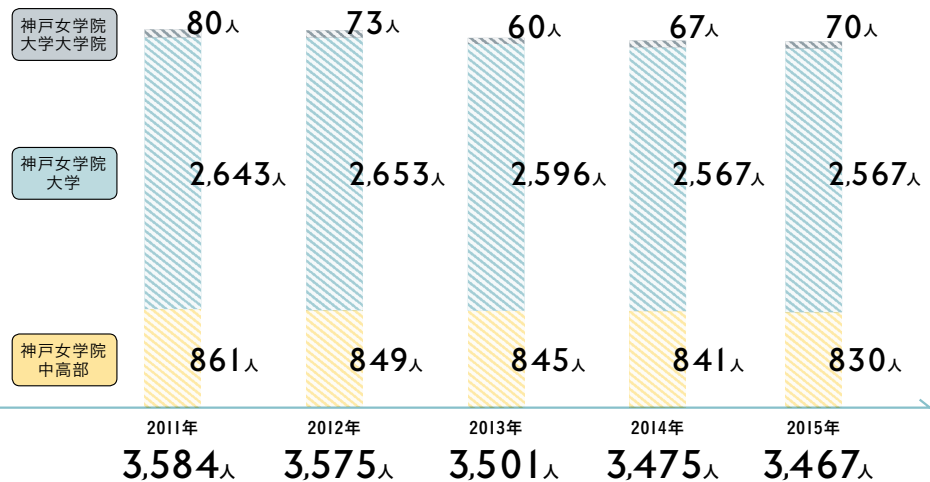
詳しくはP.22へ▶▶▶



学生・生徒の在籍者数の推移

大学院、大学、中高部ともに、変化を続ける社会情勢の中で学生・生徒数の安定的な確保を実現しています。

詳しくはP.22へ▶▶▶



教室のWi-Fi整備率

大学内の教室・演習室61室のうち、2015年度末時点で75%の部屋で無線LANの利用が可能になっています。さらにラウンジや談話室などでの利用もできます。2016年度は全教室で無線化を目指します。

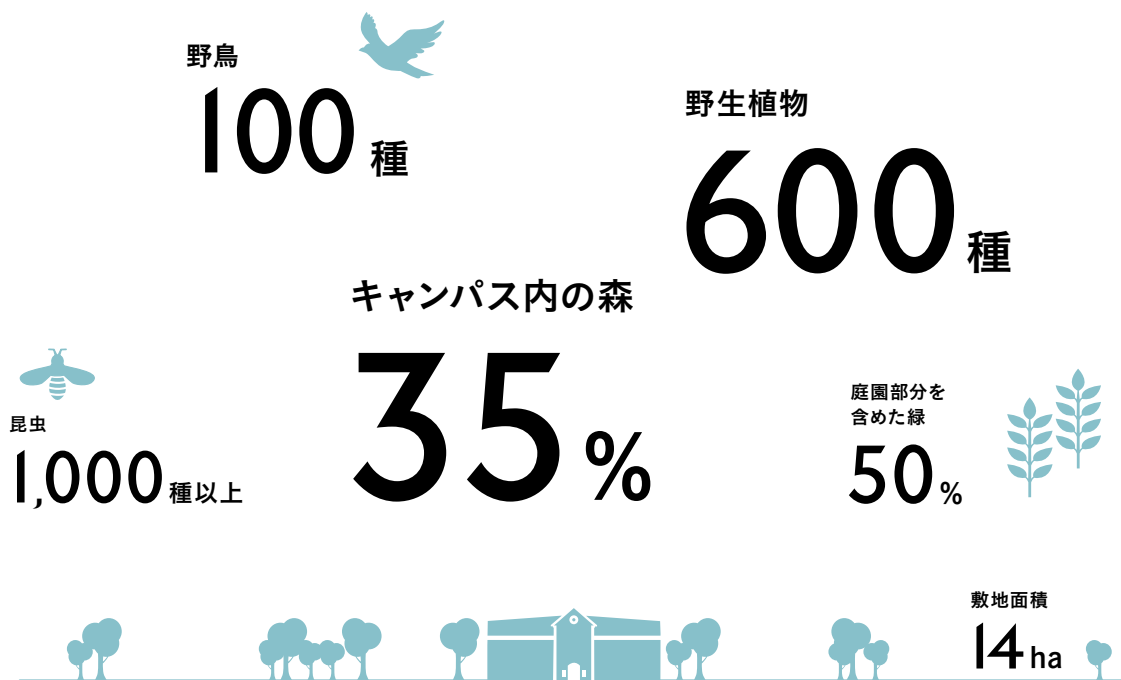
※なお、講義室だけであれば89%のWi-Fi整備率です。

75%

学生1人あたりの情報化投資額

平成26年度私立大学情報教育協会調査によると、同規模・同種別大学の中央値4.8 [万円/学生] に対し、本学は7.9 [万円/学生] でした。

7.9万円



自然豊かなキャンパス

岡田山という自然豊かな里山を、そのままキャンパスにした神戸女学院。多くの野生植物や野鳥が生息するこの森は、自然学習の場としても活用されています。

詳しくはP.42へ▶▶▶

2015年

98.0%

大学の就職率の向上

キャリアセンターによる約130回にもおよぶ就職活動支援プログラムの実施などにより98%の就職率を実現。神戸女学院OGが幅広い分野で活躍し、評価されています。

詳しくはP.27へ▶▶▶

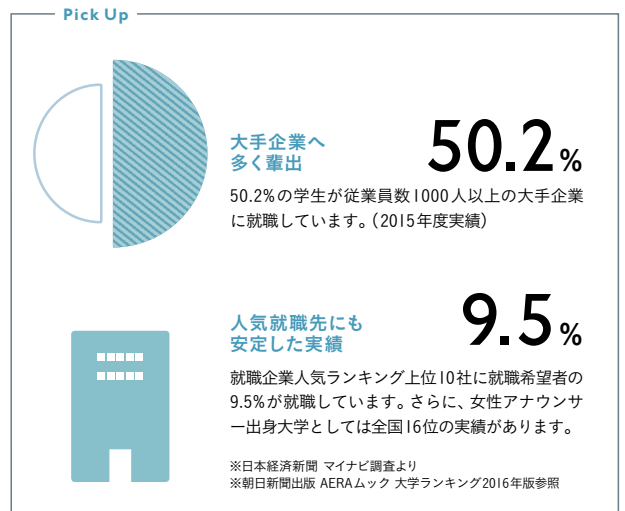
大学 430,682冊

中高部 68,317冊

図書館・図書室の蔵書冊数

蔵書の豊富さはもちろん、神戸女学院ならではのコレクションも充実。東洋布教史関係資料や明治初期讃美歌集、学院関係資料など貴重な書物を所蔵しています。

※2015年度末調べ ※中高部は消耗図書含む



入学定員・収容定員・在籍者数 (2015年5月1日現在)

神戸女学院大学

文学部	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
英文学科	140	177	560	701
総合文化学科	200	228	800	914
計	340	405	1,360	1,615
音楽学部				
音楽学科	46	51	186	180
(編入) 1	0			
計	47	51	186	180
人間科学部				
心理・行動科学科	90	98	360	400
環境・バイオサイエンス学科	80	90	320	372
計	170	188	680	772
大学 計	557	644	2,226	2,567

神戸女学院大学大学院

文学研究科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数	
英文学専攻	博士前期課程	13	6	26	11
	博士後期課程	2	1	6	4
比較文化学専攻	博士前期課程	5	3	10	12
	博士後期課程	2	0	6	0
計	22	10	48	27	
人間科学研究科					
人間科学専攻	博士前期課程	10	10	20	22
	博士後期課程	2	0	6	3
計	12	10	26	25	
音楽研究科					
音楽芸術表現専攻	修士課程	7	9	14	18
大学院 計	41	29	88	70	

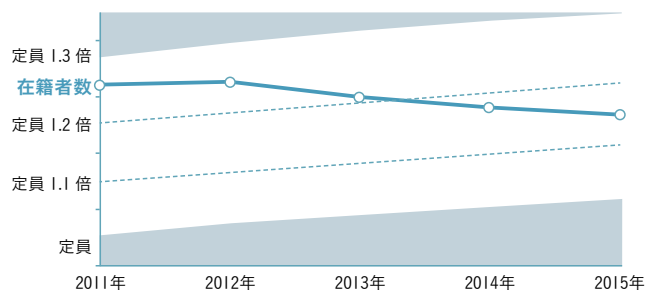
神戸女学院中高部

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍生徒数
中学部	135	140	405	419
高等学部 全日制課程 普通科	—	—	405	411
中高部 計	135	140	810	830

在籍者数推移

神戸女学院大学

学部名	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
文学部	1,656	1,653	1,606	1,588	1,615
音楽学部	212	205	206	183	180
人間科学部	775	795	784	796	772
計 (A)	2,643	2,653	2,596	2,567	2,567
定員 (B)	2,108	2,148	2,178	2,207	2,226
(A)/(B)	1.25	1.24	1.19	1.16	1.15



*2011年度より心理・行動科学科の入学定員を80名から90名に増員

*2012年度より総合文化学科の入学定員を180名から200名に増員

*2012年度より音楽学科の一年次入学定員を47名から46名とし、編入学定員を1名に変更

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程					
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
文学研究科	42	35	26	23	23
人間科学研究科	18	19	18	22	22
音楽研究科	14	14	11	13	18
計	74	68	55	58	63

博士後期課程					
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
文学研究科	5	3	3	4	4
人間科学研究科	1	2	2	5	3
計	6	5	5	9	7

神戸女学院中高部

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
中学部	423	420	416	423	419
高等学部	438	429	429	418	411
計	861	849	845	841	830

志願者数・合格者数・入学者数

神戸女学院大学

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
志願者数	3,825	3,297	3,454	3,692	3,753
合格者数	1,388	1,342	1,461	1,656	1,741
入学者数	655	623	630	644	655

2012年度 編入学試験で音楽学部1名入学

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程					
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
志願者数	48	40	48	41	44
合格者数	25	25	34	30	31
入学者数	23	23	20	28	27

博士後期課程					
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
志願者数	4	3	4	1	2
合格者数	3	2	4	1	1
入学者数	3	2	4	1	1

入試制度別状況

			志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率
一般入学試験	前期 A 日程	3 科目型	483	477	202	2.4
		2 科目型	622	613	258	2.4
		音楽学科	22	22	20	1.1
	前期 B 日程		479	469	202	2.3
	前期 C 日程		345	218	113	1.9
	前期 D 日程		195	93	46	2.0
大学入試センター試験 を利用する入学試験	前期日程	センター 1 科目型	99	42	22	1.9
		センター 2 科目型	232	232	131	1.8
		3 科目型	163	163	78	2.1
	後期日程	4 科目型	86	86	47	1.8
		2 科目型	51	51	31	1.6
		3 科目型	32	32	17	1.9
4 科目型	11	11	7	1.6		
一般入学試験 後期日程			152	141	88	1.6
公募制推薦入学試験			554	547	263	2.1
AO 入学試験			32	32	24	1.3
帰国子女入学試験			0	—	—	—
社会人入学試験			1	1	1	1.0
外国人留学生入学試験			0	—	—	—
編入学試験			1	1	1	1.0

今年度の傾向

神戸女学院大学・神戸女学院大学大学院の志願者数・合格者数・入学者数

2016年度入試は「文高理低」の傾向が見られました。景気は足踏みの状況ながらも、全国的に私大志願者数は約4%（近畿圏は約3%）増加。本学は、①入学試験成績優秀者給与奨学金制度、②学外会場の増設（広島・高松）、③国語の出題範囲変更、等を実施しました。志願者数は前年度比で微増、必要想定入学者数の確保ができました。次年度以降、英語外部検定試験の入試活用や多面的・総合的入学者選抜への対応が課題ですが、今後も本学の教育理念にかなう入学者の確保を目指します。

神戸女学院中高部

中学部					
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
志願者数	277	257	214	223	255
合格者数	153	153	153	157	162
入学者数	142	141	141	140	145
転入学者数	—	—	1	0	—

高等学部					
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
編入学者数	—	—	1	—	—

*高等学部 全日制課程 普通科 募集なし

留学

神戸女学院大学、大学院

本学から海外へ 総計 **121**人

プログラム	大学名	国名	人数	
派遣留学	ロックフォード大学	アメリカ	1	
	ワイオミング大学	アメリカ	2	
	チャタム大学	アメリカ	1	
	ポーリンググリーン大学	アメリカ	1	
	イーストアングリア大学	イギリス	1	
	広東外語外貿大学	中国	2	
	梨花女子大学	韓国	1	
	徳成女子大学	韓国	1	
	ミリアム大学	フィリピン	2	
	アサンプション大学	フィリピン	2	
	国別集計		アメリカ	5
			イギリス	1
			中国	2
		韓国	2	
		フィリピン	4	
長期派遣		計	14	

プログラム	大学名	国名	人数
認定留学	モンタナ大学	アメリカ	1
	カリフォルニア州立大学フラトン	アメリカ	1
	グラスゴーカレドニアン大学	イギリス	1
	モーツァルテウム音楽大学	オーストリア	1
		計	4

プログラム	大学名	国名	人数
中期英語留学	チャタム大学	アメリカ	8
		計	8

プログラム	大学名	国名	人数
中期海外研修	ヨーク大学	カナダ	9
	クイーンズランド大学	オーストラリア	5
		計	14

プログラム	大学名	国名	人数	
語学研修	夏期：ヨーク大学	カナダ	20	
	夏期：西オーストラリア大学	オーストラリア	14	
	夏期：ケンブリッジ大学	イギリス	15	
	夏期：カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	8	
	春期：クイーンズランド大学	オーストラリア	24	
		カナダ	20	
	国別集計		オーストラリア	38
			イギリス	15
			アメリカ	8
			計	81

今年度の傾向

神戸女学院中学部の志願者数・合格者数・入学者数

ここ2年(2014年度、2015年度)減り続けていた志願者数は、3年前(2013年度)の水準に戻り、受験生の多くが受験に臨んでくれました。その結果、2016年度は145名の入学者を新入生として迎えることができました。伝統の入試制度を守りながら、これからも本校を選んでもらえるように努力します。

神戸女学院大学・神戸女学院大学大学院の留学について

2015年度本学から海外への留学・研修派遣人数計は、121名でした。前年度の136名から減となりましたが、11月にフランスのバリで起こったテロの影響を受け、春期語学研修の一部が中止となったこと等が要因と考えられます。海外から本学への受入人数は前年度(66名)とほぼ変わらず63名となりました。

海外から本学へ 総計 **63**人

プログラム	大学名	国名	人数
交換留学	ロックフォード大学	アメリカ	1
	ポーリンググリーン大学	アメリカ	1
	徳成女子大学	韓国	2
	広東外語外貿大学	中国	3
	国別集計	アメリカ	2
		韓国	2
	中国	3	
長期受入		計	7

プログラム	大学名	国名	人数
JLCP	ミリアム大学	フィリピン	12
SJCC	セントジョセフ・カレッジ・オブ・コマース	インド	5
HONOR	ワイオミング大学	アメリカ	18
	ポーリンググリーン大学	アメリカ	9
	アサンプション大学	フィリピン	10
	モーツアルテウム音楽大学	オーストリア	2
短期受入		計	56

神戸女学院中高部

本学から海外へ

プログラム	学校名	国名	人数
公認留学	Heritage Christian School	アメリカ	1
	Waynesboro High School	アメリカ	1
	Beau Soleil Collège Alpin International	スイス	1
		計	3

海外から本学へ

国名	人数
アメリカ	1
計	1

卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況

神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部		計
	英文学科	総合文化学科	音楽学科	心理・行動科学科	環境・ バイオサイエンス 学科	
2011年	177	225	49	91	81	623
2012年	186	227	50	98	91	652
2013年	165	226	55	98	83	627
2014年	149	203	52	105	97	606
2015年	169	225	40	104	91	629

※前期末(当該年度9月)卒業を含む

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	文学研究科			音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	社会学専攻	比較文化学専攻	音楽芸術表現専攻	人間科学専攻	
2011年	12	1	1	7	8	29
2012年	12	3	2	7	10	34
2013年	7		1	7	7	22
2014年	5		4	4	10	23
2015年	4		6	9	10	29

※前期末(当該年度9月)卒業を含む

博士後期課程

博士後期満期退学

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2011年	1	3	—	4
2012年	—	—	1	1
2013年	—	—	—	—
2014年	—	1	—	1
2015年	1	—	—	1

博士学位授与

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2011年	—	—	2	2
2012年	—	1	—	1
2013年	—	1	—	1
2014年	1	—	—	1
2015年	2	—	1	3
博士後期課程 設置当初からの 累計	8	2	13	23

神戸女学院中高部

	中学部
2011年	143
2012年	142
2013年	134
2014年	141
2015年	139

	高等学部
2011年	149
2012年	139
2013年	144
2014年	143
2015年	139

就職・進学状況

神戸女学院大学

2015年度の就職率（就職希望者に対する就職者の比率）は98%で、前年度を1ポイント上回り、最近5年では一番高い数字となりました。リーマンショック後は一時期厳しい状況でしたが、景況感の改善とともにその後は高く安定した数字で推移をしています。産業別では例年金融・保険業が一番多く、今年度も3割近くを占めました。

主な就職先 (2015年度)

建設業	ANA 関西空港	三菱商事テクノス	三菱 UFJ トラストビジネス
積水ハウス	ANA 大阪空港	ヤナセ	MYJ
竹中工務店	日本航空	金融業、保険業	不動産業
日建設計	JAL スカイ	みずほフィナンシャルグループ	JR 西日本デیلیーサービスネット
製造業	JAL スカイ大阪	三井住友銀行	三井住友トラスト不動産
大阪特殊合金	JAL スカイ九州	三菱東京 UFJ 銀行	三井不動産リアルティ
オリバー	JAL スカイ那覇	りそなグループ	宿泊業
極東開発工業	エミレーツ航空	ゆうちょ銀行	阪急阪神ホテルズ
櫻護謨	シンガポール航空	京都銀行	ホテルオークラ神戸
シスメックス	西日本旅客鉄道	関西アーバン銀行	リゾートトラスト
住友電気工業	ジェイアール東海 パッセンジャーズ	みなと銀行	医療、福祉
積水化学工業	上組	紀陽銀行	社会医療法人愛仁会
東ソー	後藤回漕店	山陰合同銀行	淀川キリスト教病院
トラスコ中山	日本郵便	中国銀行	社会保険診療報酬支払基金
中西金属工業	卸売業、小売業	伊予銀行	教育、学習支援業
ニトリ	青山商事	福岡銀行	大阪府中学教員
日本圧着端子製造	アズワン	三井住友信託銀行	大阪市中学教員
ハイレックスコーポレーション	イオンリテール	大和証券	サービス業
ビップ	宇仁織維	野村證券	アンダーソン・毛利・友常 法律事務所
ファミリア	エム・シー・ヘルスケア	SMBC 日興証券	京都監査法人
村田製作所	岡本無線電機	みずほ証券	エイチアールワン
ヤンマー	サンコーインダストリー	三菱 UFJ モルガンスタンレー証券	中央復建コンサルタンツ
ロックベイント	ジェイアール西日本商事	あいおいニッセイ同和損害保険	NTT ファシリティーズ関西
情報通信業	神鋼商事	三井住友海上火災保険	高見 (TAKAMI BRIDAL)
ソフトバンク	神明ホールディング	損害保険ジャパン日本興亜	インテリジェンス
日本アイ・ビー・エム	大丸松阪屋百貨店	東京海上日動火災保険	スタッフサービス・ ホールディングス
富士ソフト	ダイワボウ情報システム	日本生命保険	マイナビ
ビクターエンタテインメント	デュプロ	明治安田生命保険	公務
毎日放送	日伝	尼崎信用金庫	大阪高等裁判所
阪技	日本酒類販売	播州信用金庫	大阪府警察
運輸業、郵便業	布亀	但陽信用金庫	堺市
全日本空輸	PALTAC	オリックス	兵庫県
ANA エアポートサービス	阪急阪神百貨店	三井住友 トラスト・ビジネスサービス	三木市
ANA 成田エアポートサービス	ビームス		生駒市
ANA 中部空港			

備考 前期末卒業を含まない
 就職者：正規の職員・従業員、自営業主等（音楽講師等、自営とみなした者を含む）
 正規の職員ではない者（雇用期間が1年以上かつフルタイム勤務相当の者）
 進学者：大学院進学者のみ（海外大学院含む）

神戸女学院大学
主な進学先 (2015年度)

学校名
英文学科
神戸大学大学院 人間発達環境学研究所
神戸女学院大学大学院 文学研究科
総合文化学科
同志社大学大学院 神学研究科
大阪大学大学院 人間科学研究科
神戸女学院大学大学院 文学研究科
音楽学科
神戸女学院大学大学院 音楽研究科
心理・行動科学科
東京成徳大学大学院 心理学研究科
京都文教大学大学院 臨床心理学研究科
大阪市立大学大学院 生活科学研究科
関西大学臨床心理専門職大学院
梅花女子大学大学院 現代人間学研究科
甲南女子大学大学院 人文科学総合研究科
神戸親和女子大学大学院 文学研究科
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科
環境・バイオサイエンス学科
京都大学大学院 人間・環境学研究科
大阪大学大学院 工学研究科
奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科

神戸女学院中高部
 進学状況は非公表

年度毎の就職決定状況

	卒業生数	希望者数	決定者数	決定者/ 希望者	進学者数	決定者/ (卒業生一進学者)
2011年						
英文	174	145	130	89.7%	4	76.5%
総合文化	222	191	170	89.0%	2	77.3%
音楽	48	25	20	80.0%	10	52.6%
心理・行動	90	68	63	92.6%	6	75.0%
環境・バイオサイエンス	79	65	59	90.8%	7	81.9%
総計	613	494	442	89.5%	29	75.7%
2012年						
英文	183	149	144	96.6%	5	80.9%
総合文化	224	187	179	95.7%	8	82.9%
音楽	48	23	23	100%	5	53.5%
心理・行動	96	72	69	95.8%	4	75.0%
環境・バイオサイエンス	91	78	77	98.7%	5	89.5%
総計	642	509	492	96.7%	27	80.0%
2013年						
英文	159	128	122	95.3%	10	81.9%
総合文化	223	188	181	96.3%	9	84.6%
音楽	52	17	15	88.2%	12	37.5%
心理・行動	95	71	67	94.4%	8	77.0%
環境・バイオサイエンス	83	71	67	94.4%	6	87.0%
総計	612	475	452	95.2%	45	79.7%
2014年						
英文	145	130	129	99.2%	3	90.8%
総合文化	198	177	174	98.3%	5	90.2%
音楽	50	26	22	84.6%	6	50.0%
心理・行動	103	90	88	97.8%	9	93.6%
環境・バイオサイエンス	96	77	72	93.5%	12	85.7%
総計	592	500	485	97.0%	35	87.1%
2015年						
英文	168	153	151	98.7%	2	91.0%
総合文化	222	204	202	99.0%	4	92.7%
音楽	40	18	15	83.3%	8	46.9%
心理・行動	104	85	82	96.5%	14	91.1%
環境・バイオサイエンス	91	79	78	98.7%	5	90.7%
総計	625	539	528	98.0%	33	89.2%

役員・評議員 (2015年5月1日現在)

理事

第1号理事 院長(理事長) 定員1名、現員1名 森 孝一	第6号理事 コーポレーション ^{※2} 推薦 理事会選任 定員3名、現員3名 原田恵子 伊藤栄子 溝口 薫
第2号理事 学長 定員1名、現員1名 斉藤言子	第7号理事 理事会選任学識経験者 定員4名、現員4名 家近正直 柴谷享一郎 菅根信彦 安場耕一郎
第3号理事 中高部長 定員1名、現員1名 林 真理子	監事 定員2名、現員2名 野木芳子 澤田磐雄
第4号理事 めぐみ会 ^{※1} 推薦会員で理事会選任 定員3名、現員3名 伊藤良子 皆本礼子 和氣節子	
第5号理事 評議員会選任 定員2名、現員2名 石割初子 西澤他喜衛	

※1 めぐみ会…正式名称「公益社団法人神戸女学院めぐみ会」は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした組織です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。(在校生は準会員)

※2 コーポレーション…正式名称「Kobe College Corporation」は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、1920年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動を続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

評議員

第1号評議員 学識経験者(理事会選任) 定員11名、現員11名 橋本恵里子 石田忠範 磯部卓三 久保田哲夫 松本眞千子 内藤 能 西澤他喜衛 佐藤容子 竹中禮子 辻 毅一郎 吉富正夫	小澤妙子 杉本雅代 梅田玲子
第2号評議員 卒業生(めぐみ会推薦評議員会選任) 定員8名、現員8名 石割初子 松本美耶子 中川玲子 大橋悦子 尾崎日佐子	第3号評議員 教職員(理事会推薦評議員会選任) 定員8名、現員8名 飯 謙 小林哲郎 高橋雅人 北田京子 荻 欣也 大門光歩 林 典宏 住野秀樹
	第4号評議員 コーポレーション推薦 評議員会選任 定員4名、現員4名 馬場美奈子 Martha Mensendiek 小澤純子 杉浦 剛

教職員 (2015年5月1日現在)

在籍教職員数

	教授	准教授	専任講師	助教	任期制教員	特任教授	特任助教	客員教員	客員研究員	特別客員	計
英文学科	9	7	2	0	0	0	0	0	0	0	18
総合文化学科	12	10	3	0	0	0	0	0	1	0	26
音楽学科	7	3	0	0	2	0	0	2	0	0	14
心理・行動科学科	5	4	2	0	0	0	0	0	0	0	11
環境・バイオサイエンス学科	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	11
一般(体育)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
共通英語教育研究センター	1	1	0	0	4	0	0	0	0	0	6
計	45	27	7	0	6	0	0	2	1	0	88

	教諭
高等学部	20
中学部	22
計	42

	専任事務職員	専任労務職員	契約職員	計
法人	18	0	1	19
大学	50	0	2	52
中高部	5	0	0	5
計	73	0	3	76

	嘱託事務職員	嘱託教学職員	計
週5日	0	0	0
週4日	9	9	18
週3日	1	5	6
週2日	0	4	4
週1日	0	0	0
計	10	18	28

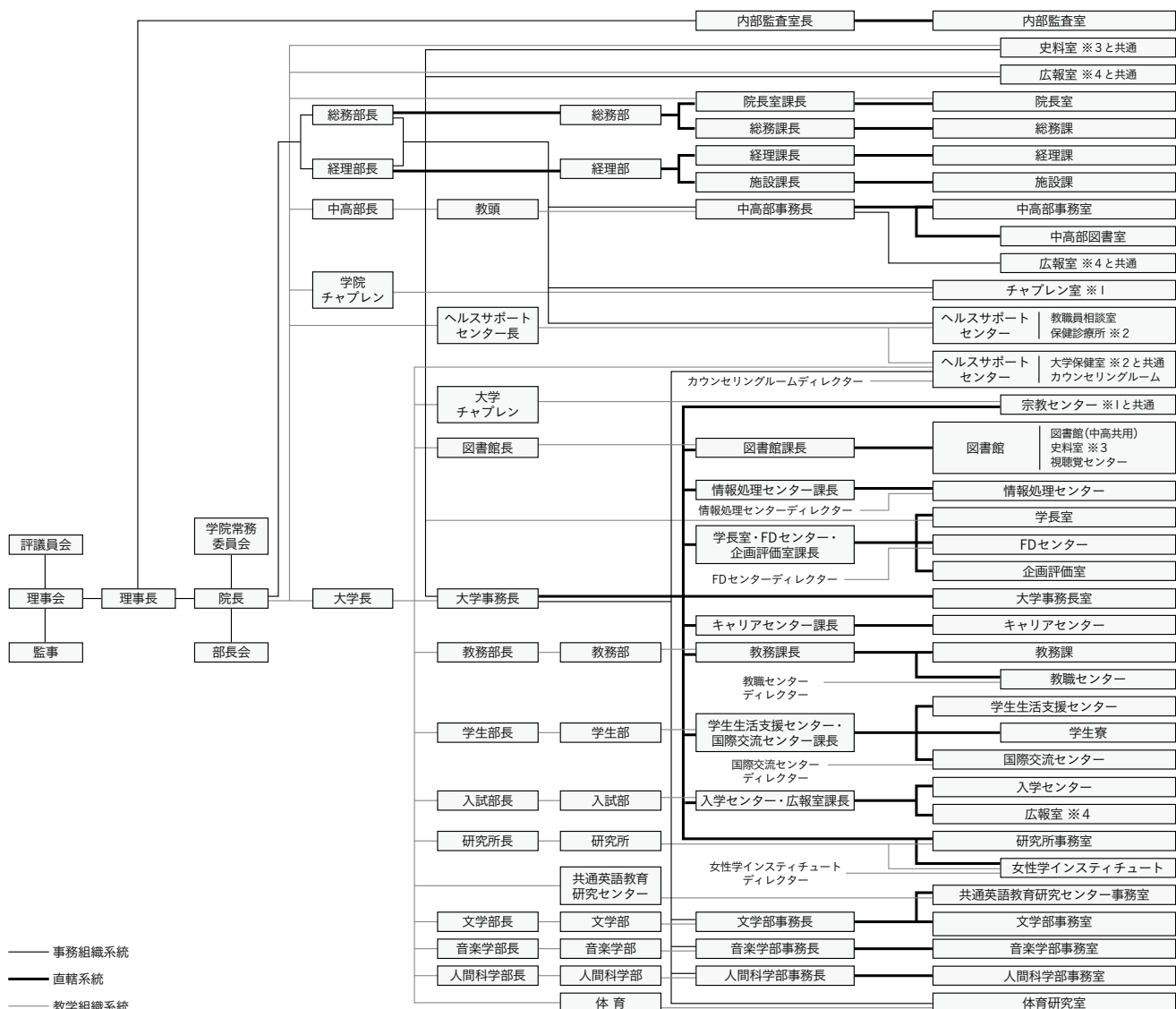
在籍教職員数推移

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
大学	専任教員	86	83	84	88	88
	非常勤講師	340	338	338	327	321
	大学計	426	421	422	415	409
中高部	専任教員	39	41	41	42	42
	非常勤講師	24	23	22	20	16
	中高計	63	64	63	62	58
計		489	485	485	477	467

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
学院	専任職員※	72	72	71	72	76
	嘱託職員	36	36	41	35	28
計		108	108	112	107	104

※契約職員含む

事務組織図 (2015年5月1日現在)



財務の概要

学校法人会計とは

学校法人とは、学校教育法及び私立学校法の定めるところにより、私立学校の設置を目的として設立された法人です。企業は営利追求を目的としますが、学校法人は永続的な教育研究活動という極めて公共性の高い事業遂行を目的としており、今後の活動を継続的かつ安定的に遂行するため、収支の均衡状況や財政状態を正確に捉えることが重要となります。このように、学校法人と企業とは目的が異なるため、学校法人は企業会計基準とは別の会計基準が必要となります。

一方、国または地方公共団体より補助金の交付を受ける学校

法人は、経理内容の透明性・信頼性を確保すべく、「私立学校振興助成法」において、文部科学大臣の定める基準に従い計算書類を作成し、外部監査を受けて所轄庁へ届出することが義務付けられています。

この従うべき基準が、「学校法人会計基準」であり、学校法人の目的に合致し、私学助成を受ける学校法人が遵守する統一的な会計処理基準として定められました。この基準に従い、本学院も「事業活動収支計算書」「資金収支計算書」「貸借対照表」などの財務書類を作成、開示する必要があります。

2015年度決算の概要

事業活動収支をみると、事業活動収入計は50億33百万円、事業活動支出計は47億43百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は2億90百万円となりました。当該収支差額は、教育活動収支差額1億34百万円、教育活動外収支差額93百万円、特別収支差額63百万円によって構成されています。

(金額は単位未満を切捨表示しているため、内訳を加減算したものと合計額・差引額は一致しません。2014年度以前の数値は新会計基準ベースに組み替えて表示しています。以下同じ。)

まず、教育活動収入(48億63百万円、前年度比△2億56百万円)をみると、学生生徒等納付金(40億1百万円)は大学入学金減額等により前年度比△92百万円、寄付金(66百万円)も卒業生の遺贈(1億44百万円)という前年度の特異要因が剥落し、前年度比△1億20百万円となりました。経常費等補助金(4億82百万円)については、私立大学等経常費補助金の特別補助において、私立大学等改革総合支援事業「タイプ1」の不採択等により△17百万円となったものの、一般補助については、定員適正化等により10百万円の増加となり、中高部の兵庫県経常費補助金増加(+5百万円)も寄与した結果、前年度並みとなりました。付随事業収入(47百万円、前年度比△40百万円)は、学生寮のチェスト・椅子の入替(20百万円)や電気使用量集中検針システム更新工事(6百万円)等により環境整備を図った結果、補助活動事業収入が前年度比△42百万円となったことが主な減少要因です。

一方、教育活動支出(47億29百万円、前年度比△1億78百万円)をみると、管理経費は広報活動の強化やマイナンバー制度対応等によるコスト増(+18百万円)となりましたが、人件費は前年度比△86百万円、教育研究経費は前年度比△1億10百万円と、大幅に減少しています。人件費の減少要因は、前年度が選定定年を含む定年退職者が多かったことにより例年より退職関連費用が増加していたこと、当該退職等に伴う人員構成の変化があります。教育研究経費は、過年度の設備投資による減

価償却費増(+18百万円)や給付型奨学金制度の充実による奨学費増(+16百万円)の一方、前年度のヴァージニア・クラークソン記念館新築工事等の大規模工事に伴う工事費用が減少し、総額では経費減となっています。

上記のとおり、収支がともに減少した結果、教育活動収支差額は1億34百万円(前年度比△77百万円)となりました。

次に、教育活動外収支をみると、低金利の金融市場にあるものの、金銭信託を中心とした運用が順調に進み、安定収益を確保した結果、受取利息・配当金は95百万円(前年度比+27百万円)となりました。一方、借入金の約定返済により借入金利息も減少(△0.9百万円)し、教育活動外収支差額は93百万円(前年度比+28百万円)となりました。

さらに、特別収支は、施設設備補助金については無線LAN化等の補助金(8百万円)等を計上するものの減収となっていますが、特定資産の中で運用していた地方債等の売却益(34百万円)等により、資産売却差額は35百万円増加、一方、資産処分差額はほぼ前年度並みの11百万円となり、特別収支差額は63百万円(前年度比+15百万円)となりました。

これらの3活動により確保した基本金組入前当年度収支差額2億90百万円から、文学部2号館トイレ改修工事による建物増加(20百万円)や建築資金の借入金返済(55百万円)による第1号基本金組入(2億30百万円)、第3号基本金組入(1億40百万円)を行った結果、当年度収支差額は△79百万円と前年度並みにおさまリ、翌年度繰越収支差額は、これに前年度繰越収支差額△10億16百万円を加えた△10億95百万円となりました。

資金収支は、事業活動収支と同様、入学金減額や前年度の大口径寄付の特異要因剥離の影響で収入減の傾向にありましたが、今年度は前年度ほどの大型工事はなく施設設備関係の支出も減少し、収支バランスが安定していたこと、また市場の動向にあわせた債券等の売却に伴う財務収入も寄与し、翌年度繰越支払資金は27億53百万円(前年度比+93百万円)となりました。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該会計年度の3つの活動（①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③その他の活動）に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内訳を示し、経常収支（①教育活動収支と②教育活動外収支）と臨時的な収支（③特別収支）を明らかにするため、また、基本金組入後の収支均衡状態を明らかにするために作成します。2015年度の事業活動収支計算書の概要は次のとおりです。

教育活動収支	経常的な収支のうち、本業である教育研究活動の収支。	当年度収支差額	旧消費収支差額。事業活動収入の額から事業活動支出の額を控除した額。長期的収支バランスの判断指標。
教育活動外収支	主に財務活動（資金調達と資産運用に係る活動）の収支。	前年度繰越収支差額	当年度収支差額の累積額。
経常収支差額	経常的な事業活動による収入（経常収入）とコスト（経常支出）の収支差額（バランス）。	翌年度繰越収支差額	当年度収支差額の累積額。
特別収支	特殊要因による臨時的な事業活動収入（施設設備取得に対する補助金等）や資産売却損益等。	事業活動収入	旧帰属収入。借入金収入や前受金収入等の負債となる収入を除いた正味の収入（現物寄付を含む）。
基本金組入前当年度収支差額	旧帰属収支差額。単年度における事業活動全体の収支差額。	事業活動支出	旧消費支出。資金支出のない減価償却費や資産処分差額等も含まれ、学校法人の正味の費用。
基本金組入額合計	事業活動収入から基本金（諸活動の計画に基づき継続的に維持すべき資産）への当該会計年度の充当額。		

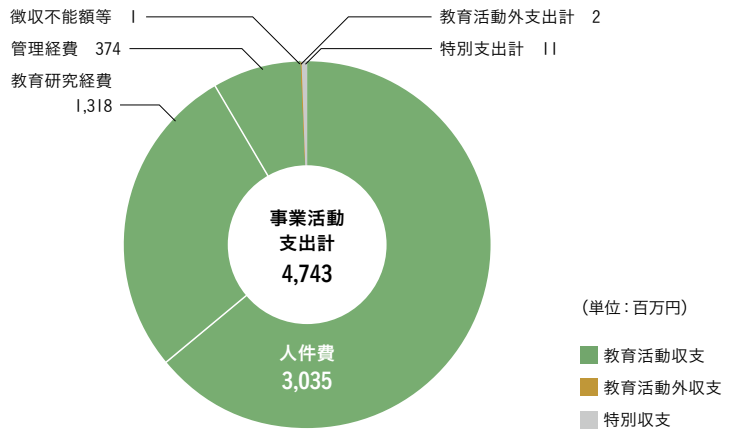
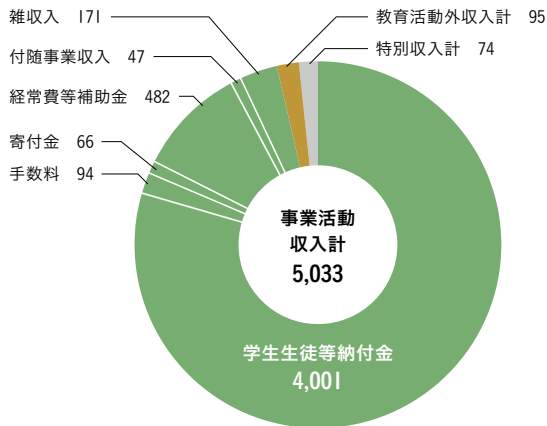
(単位：百万円)

科目		本年度 予算	本年度 決算 (A)	前年度 決算 (B)	増減 (A)-(B)	対前年度比増減要因	
教育活動収支	収入の部 事業活動	学生生徒等納付金	4,001	4,001	4,093	△ 92	授業料や入学金などで構成されています。前年度から在籍者の大きな変動はありませんが、大学において、2015年度入試より入学金を減額（40万円から20万円）したこと等による減少です。
		手数料	89	94	94	0	情報発信の強化だけでなく、大学において学外試験会場の増設（広島・高松）や成績優秀者給与奨学金制度の充実等を図った結果、志願者数が増加し、入学検定料収入は前年度並みとなりました。
		寄付金	60	66	186	△ 120	本学院在校生の保護者、同窓生、企業や団体、教職員等からの寄付金であり、教育振興会を通じての寄付が大半です。前年度は卒業生からの遺贈（1億44百万円）が含まれていたため、前年度比減となっています。
		経常費等補助金	443	482	481	0	国や地方公共団体からの補助金収入（施設設備の拡充等のための補助金を除く）です。大学において、改革総合支援事業タイプ1の不採択等により特別補助は減少しましたが、定員数適正化の効果等により一般補助が増加し、全体としては前年度並みとなりました。
		付随事業収入	47	47	87	△ 40	学生寮の運営や受託事業収入等で構成されています。本年度は、学生寮のチェスト・椅子の入替や電気使用量集中検針システム更新等により補助活動事業収入が減少（△42百万円）しました。
		雑収入	167	171	175	△ 4	主に私学退職金財団からの交付金収入によるものであり、大きな変動はありません。
	教育活動収入計	4,808	4,863	5,119	△ 256		
	支出の部 事業活動	人件費	3,034	3,035	3,122	△ 86	教職員の給与・賞与や退職給付引当金繰入額等で構成されています。前年度は選択定年を含む定年退職者が多かったことにより退職関連費用が例年よりも多く計上されていたため、前年度比減となりました。
		教育研究経費	1,407	1,318	1,428	△ 110	過年度の大型設備投資により減価償却費は増加（+18百万円）しましたが、大型改修工事による修繕費減（△85百万円）、取引業者見直し等による光熱水費減（△12百万円）等による減少です。
		管理経費	401	374	355	18	本年度はマイナンバー制度対応や大学広報関連費用の増加等により業務委託費が増加（+12百万円）、また、前年度は発生していない経常費補助金返還金（4百万円）を計上したこと等による増加です。
徴収不能額等		—	1	0	0	貸与奨学金の徴収不能見込額（本年度発生分）を計上しています。	
教育活動支出計	4,842	4,729	4,907	△ 178			
教育活動収支差額	△ 33	134	212	△ 77			
教育活動外収支	収入の部 事業活動	受取利息・配当金	92	95	67	27	本年度は、金銭信託による運用も順調であり、前年度の約1.4倍にあたる収入を確保することができました。
		教育活動外収入計	92	95	67	27	
	支出の部 事業活動	借入金等利息	2	2	3	△ 0	借入金の約定返済に伴う減少です。
		教育活動外支出計	2	2	3	△ 0	
教育活動外収支差額	89	93	64	28			
経常収支差額	56	227	276	△ 49			
特別収支	収入の部 事業活動	資産売却差額	14	35	0	35	特定資産で運用していた地方債等の売却益を計上しています。
		その他の特別収入	39	39	58	△ 19	施設設備の拡充等のための寄付金・補助金です。本年度の施設設備補助金13百万円（前年度比△19百万円）は、大学無線 LAN 化（8百万円）、テレビ会議システム（4百万円）等に対する補助金です。
	特別収入計	53	74	58	16		
	支出の部 事業活動	資産処分差額	10	11	11	0	施設・設備の処分差額が計上されており、ほぼ前年度並みとなっています。
特別支出計		10	11	11	0		
特別収支差額	43	63	47	15			
基本金組入前当年度収支差額	100	290	323	△ 33			
基本金組入額合計	△ 389	△ 370	△ 403	33	本年度の組入内容は、文学部2号館トイレ改修工事による建物増加（20百万円）や建築資金の借入金返済（55百万円）による第1号基本金組入（2億30百万円）、第3号基本金組入（1億40百万円）です。		
当年度収支差額	△ 288	△ 79	△ 80	0	本年度は前年度と比べると収入は減少しましたが、前年度のような大規模工事もなく、支出も基本金組入額も減少したため、当年度収支差額は前年度並みとなりました。		
前年度繰越収支差額	△ 1,016	△ 1,016	△ 977	△ 38			
基本金取崩額	—	—	41	△ 41	前年度は、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事資金を借入れ、同額未組入となったこと等により、第1号基本金取崩となりました。		
翌年度繰越収支差額	△ 1,304	△ 1,095	△ 1,016	△ 79			

(参考)

事業活動収入計	4,954	5,033	5,246	△ 212	教育活動収入+教育活動外収入+特別収入を表します。
事業活動支出計	4,854	4,743	4,922	△ 179	教育活動支出+教育活動外支出+特別支出を表します。

事業活動収支の内訳



事業活動収支推移 (収入・支出)

(単位: 百万円)

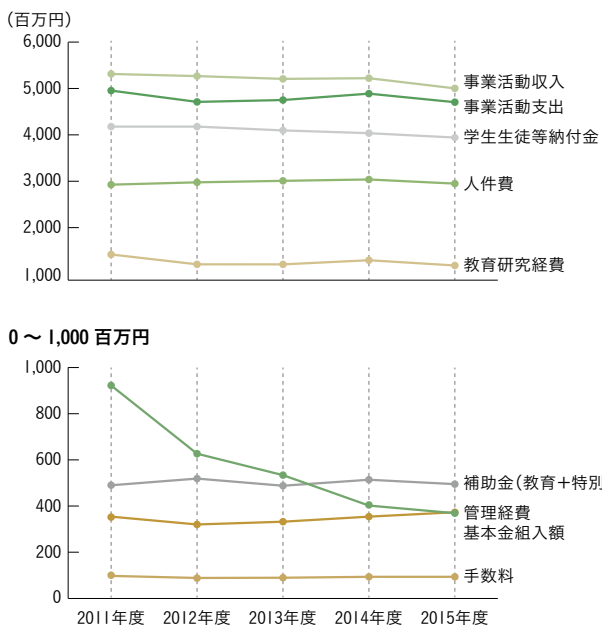
科目	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
事業活動収入	5,335	5,290	5,232	5,246	5,033
事業活動支出	4,986	4,749	4,788	4,922	4,743
基本金組入額	924	628	535	403	370
学生生徒等納付金	4,231	4,231	4,151	4,093	4,001
手数料	98	89	90	94	94
補助金(教育+特別)	491	520	489	515	496
人件費	3,013	3,062	3,093	3,122	3,035
教育研究経費	1,549	1,342	1,341	1,428	1,318
管理経費	355	321	333	355	374

事業活動収支推移 (収支差額)

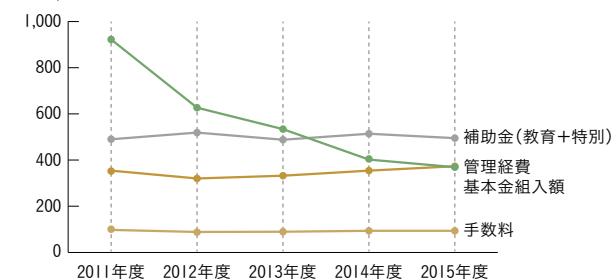
(単位: 百万円)

科目	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
教育活動収支差額	187	465	303	212	134
教育活動外収支差額	68	50	49	64	93
経常収支差額	256	516	352	276	227
特別収支差額	92	24	91	47	63
基本金組入前 当年度収支差額	348	541	444	323	290
当年度収支差額	△ 575	△ 87	△ 91	△ 80	△ 79

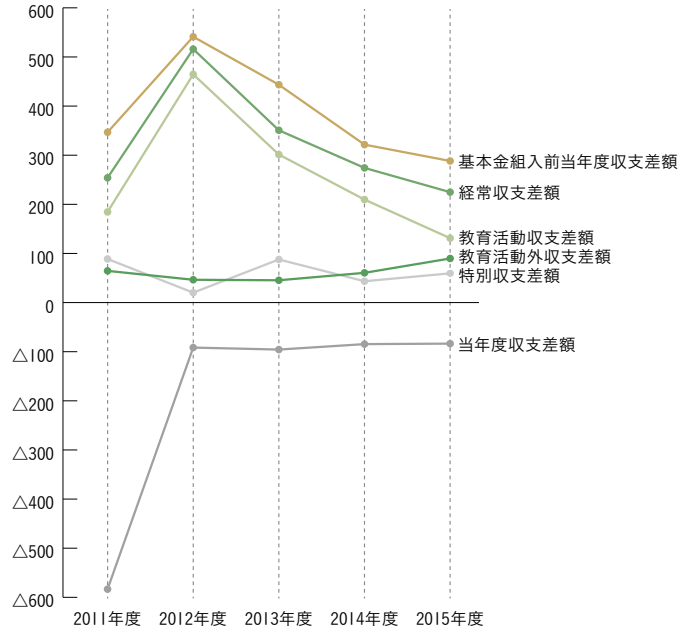
1,000～6,000 百万円



0～1,000 百万円



(百万円)



資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金（現金預金）の収入及び支出のてん末を明らかにするために作成します。2015年度の資金収支計算書の概要は次のとおりです。

資金収支計算書

(単位：百万円)

収入の部				
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
学生生徒等納付金収入	4,001	4,001	4,093	△ 92
手数料収入	89	94	94	0
寄付金収入	84	90	210	△ 120
補助金収入	457	496	515	△ 18
資産売却収入	14	35	0	35
付随事業・収益事業収入	47	47	87	△ 40
受取利息・配当金収入	92	95	67	27
雑収入	167	171	175	△ 4
借入金等収入	—	—	236	△ 236
前受金収入	691	724	710	13
その他の収入	208	212	272	△ 60
資金収入調整勘定	△ 847	△ 858	△ 968	109
前年度繰越支払資金	2,659	2,659	2,617	42
収入の部合計	7,664	7,769	8,112	△ 343

支出の部				
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
人件費支出	3,054	3,054	3,093	△ 38
教育研究経費支出	1,100	1,011	1,128	△ 116
管理経費支出	368	341	324	16
借入金等利息支出	2	2	3	△ 0
借入金等返済支出	115	115	102	13
施設関係支出	161	161	279	△ 117
設備関係支出	111	97	139	△ 42
資産運用支出	144	164	331	△ 167
その他の支出	202	175	197	△ 22
資金支出調整勘定	△ 114	△ 106	△ 146	39
翌年度繰越支払資金	2,520	2,753	2,659	93
支出の部合計	7,664	7,769	8,112	△ 343

収入の部

資金収入を伴わない収入（現物寄付等）は「事業活動収支計算書」に計上されていますが、「資金収支計算書」には含まれません。一方、負債の増加を伴う収入（借入金、前受金等）や資産の現金化（貸与奨学金の返済等）に伴う入金取引は「資金収支計算書」に計上されていますが、収益取引ではないため、「事業活動収支計算書」には含まれていません。「事業活動収支計算書」と重複する科目については前述をご参照下さい。

借入金については、前年度はヴァージニア・クラークソン記念館新築工事資金として2億36百万円の借入を行いました。本年度は借入を行っていないため、前年度比では収入減となります。

前受金については、情報発信の強化や大学における学外試験会場の増設（広島・高松）等により2016年度入学者数が増加したため、前年度比増加（+13百万円）となっています。

その他の収入については、前期末未収入金収入が前年度比△82百万円となり、収入減の要因となります。これは、勤続年数の長い退職者減により退職金財団からの前期末未収入金が減少したことによるものです。

さらに、資金収入調整勘定についてみると、本年度に計上している前期末前受金が、大学での入学金減額等により1億10百万円減額となり、資金増の要因となっています。

以上の結果、収入の部合計は、前年度比△3億43百万円の77億69百万円となりました。

支出の部

資金支出を伴わない支出（減価償却費、資産処分差額等）は「事業活動収支計算書」に計上されていますが、「資金収支計算書」には含まれません。一方、資産の入替（奨学金の貸与）、負債の減少（借入金の返済等）、資金支出時に費用にならない（将来費用化される）支出（施設関係支出、設備関係支出、前払金支払支出等）などは、「資金収支計算書」には計上されますが、「事業活動収支計算書」には含まれません。「事業活動収支計算書」と重複する科目については前述をご参照下さい。

借入については、前年度の新規借入に伴い、借入金の約定返済額は増加していますが、新規借入分については無利息期間のため、借入金等利息支出は減少しています。

施設関係支出、設備関係支出については、前年度はヴァージニア・クラークソン記念館新築工事やコミュニケーションセンターの改修工事など大型の設備投資にかかる支出が計上されましたが、本年度は第二体育館改修工事や各種建物のトイレ改修工事等を実施しても、前年度ほどの規模にはなく、両支出の合計は前年度比△1億60百万円の減となりました。

資産運用支出については、前年度は、卒業生からの遺贈を財源とする新たな奨学基金の設定のため、第3号基本金引当特定資産への組入（1億44百万円）がありましたが、本年度は当該要因が剥落したことにより、例年並みの支出となっています。

以上の結果、翌年度繰越支払資金は93百万円増加の27億53百万円となりました。

活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書の決算額を3つの活動（①教育活動、②施設・設備の取得又は売却その他これに類する活動、③資金調達その他①②にかかる活動以外の活動）に区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにするために作成します。

2015年度の活動区分資金収支計算書は次のとおりです。

(単位：百万円)

		科目	本年度決算
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,001
		手数料収入	94
		特別寄付金収入	65
		経常費等補助金収入	482
		付随事業収入	47
		雑収入	171
		教育活動資金収入計	4,862
	支出	人件費支出	3,054
		教育研究経費支出	1,011
		管理経費支出	341
教育活動資金支出計		4,407	
	差引	455	
	調整勘定等	△ 26	
	教育活動資金収支差額	428	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	24
		施設設備補助金収入	13
		施設設備売却収入	0
		施設整備等活動資金収入計	39
	支出	施設関係支出	161
		設備関係支出	97
		岡田山建築保存引当特定資産繰入支出	24
		施設整備等活動資金支出計	282
		差引	△ 243
		調整勘定等	△ 5
	施設整備等活動資金収支差額	△ 248	
	小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	180	
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	34
		退職給与引当特定資産取崩収入	19
		貸与奨学金回収収入	44
		預り金受入収入	1
		小計	100
		受取利息・配当金収入	95
	その他の活動資金収入計	195	
	支出	借入金等返済支出	115
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	140
		出資金支出	0
		貸与奨学金支払支出	24
		小計	280
		借入金等利息支出	2
		その他の活動資金支出計	282
		差引	△ 86
	調整勘定等	—	
	その他の活動資金収支差額	△ 86	
	支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	93	
	前年度繰越支払資金	2,659	
	翌年度繰越支払資金	2,753	

貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末の財政状態（運用形態と調達源泉）を明らかにするために作成します。
2015年度の貸借対照表の概要は次のとおりです。

貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定資産	15,659	15,627	32
有形固定資産	8,828	8,905	△ 77
土地	1,341	1,323	18
建物	4,474	4,556	△ 81
構築物	543	556	△ 13
教育研究用機器備品	443	463	△ 19
管理用機器備品	18	20	△ 2
図書	2,005	1,984	20
車両	0	0	△ 0
特定資産	6,121	5,976	144
第3号基本金 引当特定資産	1,392	1,251	140
退職給与引当特定資産	1,465	1,484	△ 19
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0
岡田山建築保存 引当特定資産	127	103	24
その他の固定資産	710	744	△ 34
電話加入権	3	3	0
ソフトウェア	35	49	△ 13
有価証券	406	406	0
差入保証金	3	3	0
出資金	20	20	0
貸与奨学金	239	260	△ 21
その他	0	0	0
流動資産	2,918	2,816	101
現金預金	2,735	2,642	92
修学旅行費預り資産	17	16	0
未収入金	148	146	1
前払金	16	9	6
資産の部合計	18,577	18,443	134

負債の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定負債	1,723	1,856	△ 133
長期借入金	251	366	△ 115
長期未払金	6	5	1
退職給与引当金	1,465	1,484	△ 19
流動負債	1,029	1,052	△ 23
短期借入金	115	115	△ 0
未払金	98	137	△ 38
前受金	724	710	13
預り金	74	73	0
修学旅行費預り金	17	16	0
負債の部合計	2,752	2,909	△ 156

純資産の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
基本金	16,920	16,550	370
第1号基本金	15,155	14,925	230
第3号基本金	1,392	1,251	140
第4号基本金	373	373	0
繰越収支差額	△ 1,095	△ 1,016	△ 79
翌年度繰越収支差額	△ 1,095	△ 1,016	△ 79
純資産の部合計	15,824	15,534	290
負債及び純資産の部合計	18,577	18,443	134

資産の部

【固定資産】156億59百万円（+32百万円）

有形固定資産については、防災倉庫設置のための隣接地購入により土地が増加（+18百万円）しました。また、トイレ等の改修工事（第二体育館、理学館、文学部2号館、岡田山ロッジ他）によりアメニティの向上を図るとともに、文学部2号館45室の机椅子入替や無線LAN環境の拡大（社交館等）、テレビ会議システムの導入等、教育環境の充実にも力を入れました。しかし、本年度の資産取得額を上回る減価償却費の計上により、有形固定資産は前年度比△77百万円の減少となりました。

特定資産については、銀行預金、金銭信託、地方債等で運用しています。第3号基本金の計画的組入（2016年度まで毎年1

億円組入れ）、教育振興会等による寄付金収入の第3号基本金や岡田山建築保存引当特定資産への組入れにより、特定資産は1億44百万円増加しました。

その他の固定資産については、減価償却費の計上によるソフトウェアの減少（△13百万円）や、繰上返済等による貸与奨学金残高の減少（△21百万円）により、前年度比△34百万円の減少となりました。

【流動資産】29億18百万円（+1億1百万円）

未収入金は、主に退職金財団からの交付金や補助金の未収入金で構成されていますが、著変動なく、資金収支計算書の記述のとおり現金預金が増加した結果、流動資産も増加しました。

負債の部

【固定負債】17億23百万円(△1億33百万円)

借入金は全て私立学校振興・共済事業団からの借入金であり、約定返済による短期への振替により長期借入金が減少(△1億15百万円)しています。割賦購入による長期未払金は著変動ありません。退職給与引当金は長期勤続者の定年退職等により期末要支給額が減少したため減少(△19百万円)しています。

【流動負債】10億29百万円(△23百万円)

2016年度入学者の増加により学費等の前受金が増加(+13百万円)したものの、設備関係等の未払金が減少(△38百万円)した結果、流動負債減となりました。

純資産の部

【基本金】169億20百万円(+3億70百万円)

第1号基本金は、教育の充実向上のために取得した固定資産の価額を組み入れたものです。本年度は、文学部2号館トイレ改修工事等の固定資産取得に伴い2億30百万円増加しました。第3号基本金は、奨学金等の教育研究活動に対して基金の運用果実をもって運営するためのものです。奨学基金への計画的組入1億円及び教育振興会等の寄付金の組入で1億40百万円増加しました。

【繰越収支差額】△10億95百万円(△79百万円)

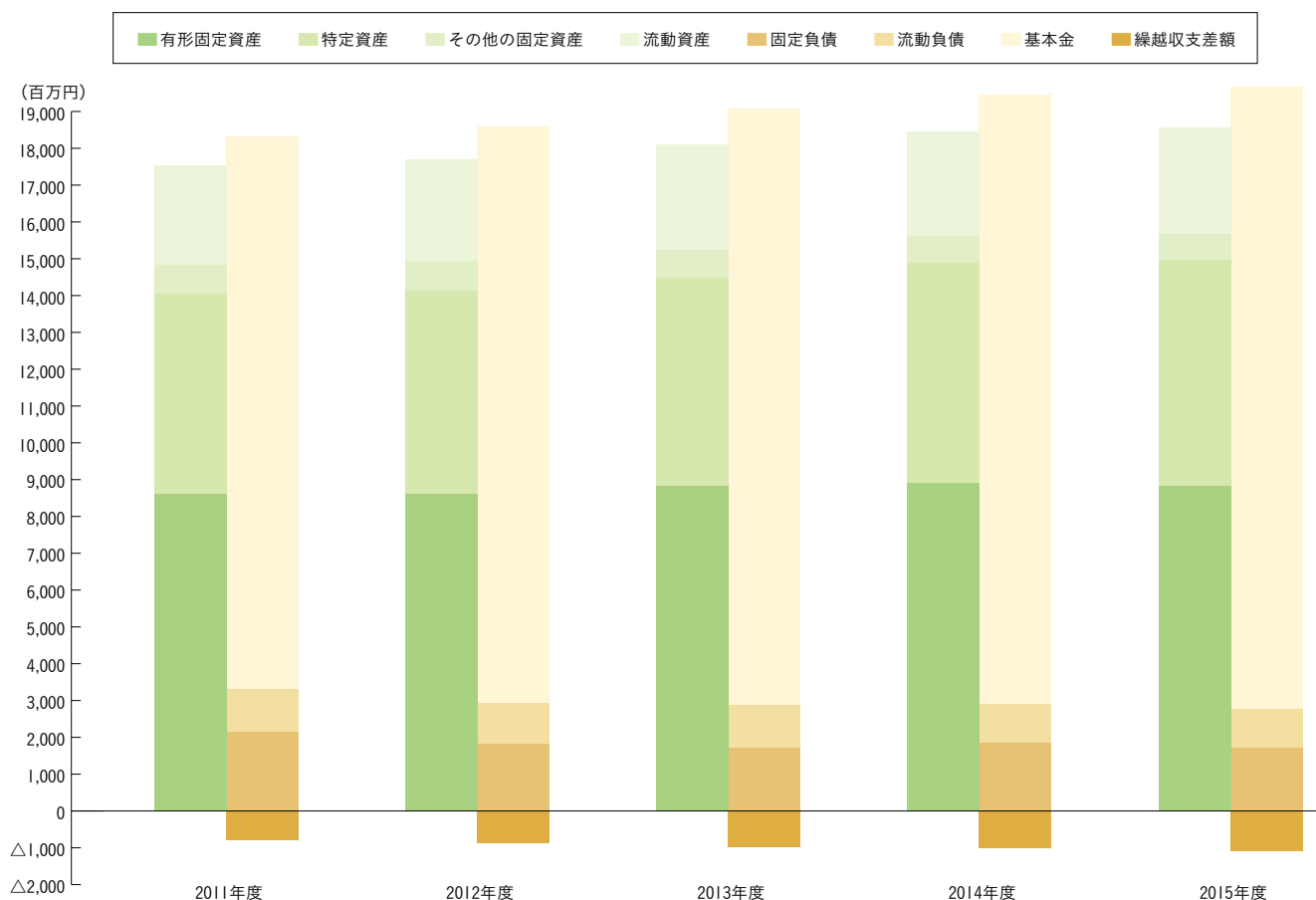
事業活動収支計算書の当年度収支差額の累計額が計上されており、長期的な収支バランスを表しています。

貸借対照表の推移

資産の部					
科目	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
有形固定資産	8,622	8,611	8,822	8,905	8,828
特定資産	5,417	5,521	5,645	5,976	6,121
その他の固定資産	794	794	767	744	710
流動資産	2,699	2,768	2,857	2,816	2,918
合計	17,533	17,696	18,092	18,443	18,577

(単位:百万円)

負債及び純資産の部					
科目	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
固定負債	2,138	1,829	1,706	1,856	1,723
流動負債	1,169	1,100	1,175	1,052	1,029
基本金	15,023	15,652	16,188	16,550	16,920
繰越収支差額	△798	△886	△977	△1,016	△1,095
合計	17,533	17,696	18,092	18,443	18,577
【参考】純資産	14,225	14,766	15,210	15,534	15,824



財務比率の推移

過去5年間の事業活動収支計算書、貸借対照表の財務諸比率の推移は次のとおりです。

(財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています。)

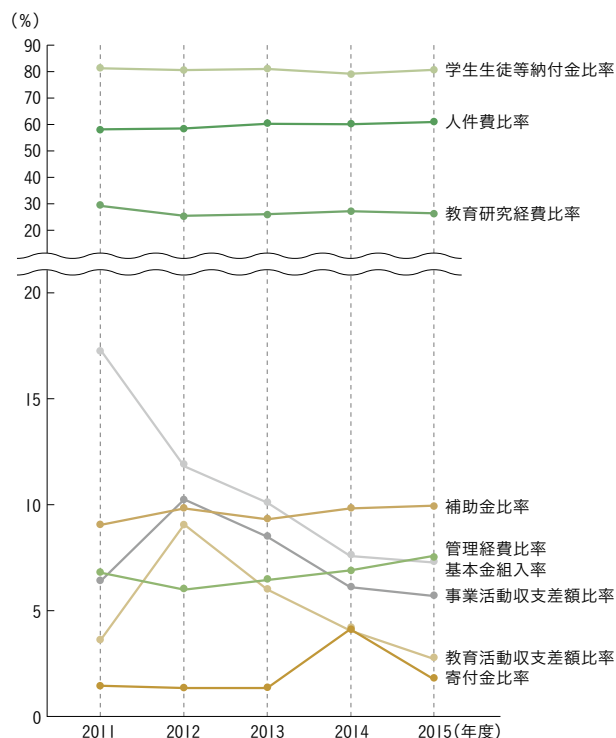
なお、2014年度以前の財務比率については、計算書類を新会計基準ベースに組み替えて算定しています。

事業活動収支計算書関係比率

比率名	計算式	評価	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	57.9%	58.3%	60.4%	60.2%	61.2%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	29.8%	25.5%	26.2%	27.5%	26.6%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	6.8%	6.1%	6.5%	6.9%	7.5%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	—	81.3%	80.5%	81.0%	78.9%	80.7%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	△	1.5%	1.4%	1.4%	4.0%	1.8%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	9.2%	9.8%	9.4%	9.8%	9.9%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△	3.7%	9.0%	6.0%	4.1%	2.8%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△	6.5%	10.2%	8.5%	6.2%	5.8%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	17.3%	11.9%	10.2%	7.7%	7.4%

*評価欄は「△：高い値が良い」「▼：低い値が良い」「—：どちらともいえない」を示しています。
(日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」、日本私立大学連盟「新学校法人会計基準の財務比率に関するガイドライン」を参考に記載。以下同じ。)

経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

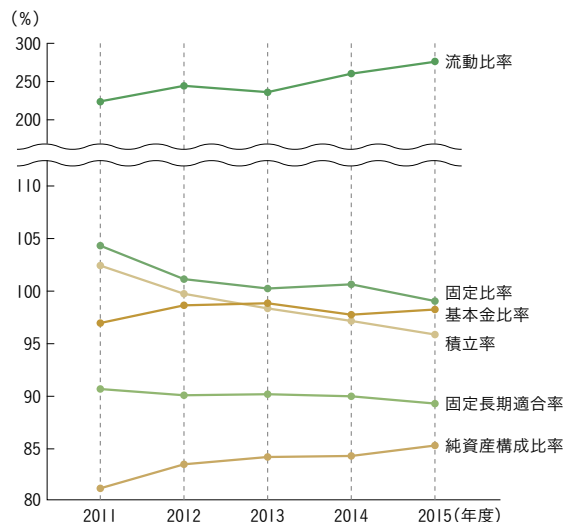


貸借対照表関係比率

比率名	計算式	評価	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	230.8%	251.5%	243.1%	267.6%	283.5%
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	▼	104.3%	101.1%	100.2%	100.6%	99.0%
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	▼	90.6%	90.0%	90.1%	89.9%	89.2%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	96.9%	98.6%	98.8%	97.7%	98.2%
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△	81.1%	83.4%	84.1%	84.2%	85.2%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	102.4%	99.7%	98.3%	97.1%	95.8%

* 運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

要積立額＝減価償却累計額＋退職給付引当金＋第2号基本金＋第3号基本金



2016年度事業計画

今後の運営方針及び2016年度事業計画

神戸女学院は1875年に創立され、その10年後にカレッジ部門である高等科を設置して以来、一貫して、日本におけるキリスト教主義学校、女子大学、リベラルアーツ・カレッジのモデルとして先駆的役割を果たしてきました。また、1933年に完成した現在のキャンパスは、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ的设计による美しい校舎群（2014年9月18日、国の重要文化財に指定）と岡田山の豊かな自然が調和し、まさに「学舎が学生を教育する」（ヴォーリズ）理想的な環境を提供しています。

大学入学対象者の18才人口は、2018年から再び減少傾向となり、現在の約120万人が2031年には約100万人になると見込まれるなど、大学を取り巻く環境は今後一層厳しくなることが予想されます。この2018年度問題を乗り越えるために、神戸女学院は、変わらぬ理念のもと、「豊かな人間性と国際感覚を育む、日本を代表するキリスト教主義リベラルアーツ女子大学」という本来の特質を明確にして、他大学と差異化し、質の高いリベラルアーツ教育を提供する大学となるよう、教学改革、広報、環境整備など全学的かつ総合的な改善に取り組んで参ります。

中高部においては、厳しい環境下にあっても、現状、入学者確保等において順調に推移しております。近年、施設設備の拡充を行ってまいりましたが、今後も、教学、学習環境、広報において更なる充実を図って参ります。

2016年度に実施される事業計画の策定にあたり、以下の重点課題を定めました。

リベラルアーツ教育の更なる充実

リベラルアーツ教育の意義について共有し深化させる取り組みを推進する。

学習環境の向上と充実

学生、生徒の学習環境向上と重要文化財の保存活用を推進する。

学生、生徒サービスの向上

学生、生徒の満足度向上に寄与する取り組みを推進する。

広報力の整備、強化

学院の優れた教育理念、教育内容、教育環境について共有し、社会の認知を促進する体制を強化する。

2016年度予算編成にあたっては、これらを踏まえた施策・全学的取組を優先し採択しました。主な取組は以下の通りです。

リベラルアーツ教育の更なる充実

- ・大学の2018年度問題検討WGで策定された、リベラルアーツ教育の更なる充実をめざす新カリキュラムが2017年度に始動します。これに対応すべく、教務システムを改修します。
- ・共通英語教育研究センターのEnglish Honors Programの更なる充実のため、スタンフォード大学教員指導による米国研修プログラムを実施します。

- ・ポーランドにおける移民・難民問題をテーマとして、ポーランド海外フィールドスタディを実施します。
- ・通訳、翻訳を専攻する学生と音楽学部など他分野を専攻する他学部の学生が連携した分野横断型招聘OJTプログラムを実施します。
- ・『美容式®アミノ酸ゼリー』は、商品開発に関わった学生をふくめ、メディアにも多く取り上げられ神戸女学院大学の認知度向上につながりました。今後は、コーヒーや和菓子など異なる味や形状を変えた開発および商品企画を展開し、産学連携と学生の参画、大学ブランド商品イベントへの参加等を通じて本学ブランド力の向上に貢献します。

学習環境の向上と充実

- ・大学内ネットワークシステム、MM教室やCS教室などパソコン教室の授業支援システム、教職員および学生用のメールシステムの更改などITリプレースを実施します。利用者の利便性向上とセキュリティ対策強化を図り、安定運用可能なネットワークを構築します。
- ・学内LAN無線化計画を推進します。2014年度より実施してきましたが、今年度、音楽館、音楽2号館、エミリー・ブラウン記念館、ジュリア・ダッドレー記念館に無線LANを敷設、これにより、大学の全施設で無線LANが導入されることとなります。教室、演習室、実験室、ラウンジ等、学生が授業中および授業時間外で活動する場所において、無線（Wi-Fi）を介して学内LANやインターネットに接続できる環境を整備し、学生の自主的学修を支援し、先進的な授業形態の実現に寄与します。
- ・スマートフォンを活用できる、新しい英語の自学自習（e-learning）システムを導入します。発音、音声評定分析機能によりTOEICスコアの向上と総合的英語4技能の強化が期待できます。
- ・メアリー・アンナ・ホルブルック記念館HI03実験室にドラフト（局所排気装置）を設置することにより、環境科学系の化学実験の実施が可能となり、環境物質の処理を伴う市民、高校生等へのプログラムも実施できます。
- ・理学館屋上ベランダの整備を実施します。現在の温室を撤去し軽量の温室を設置、ミツバチ飼育観察用のプレハブ施設を設置し、見学に適した環境に整備します。屋上見学を理学館体験やオープンキャンパスで実施することにより、広報強化につながります。ハチミツ生産が安定し、ハチミツ販売やアミノ酸ゼリーへの安定供給が可能となり、本学ブランド力の向上につながります。
- ・中高部の理科観察用顕微鏡を入れ替えます。現在使用しているものは、38年前に購入したもので、精度や操作性に優れた最新式の顕微鏡を揃えます。
- ・照度が基準値以下の中高部1号館の教室において、黒板灯の整備等を実施します。

学生、生徒サービスの向上

- ・聴覚障がい者支援システムを導入します。
- ・学生寮舎監室の増設、学生寮シャワーユニット取替え、ジュリア・ダッドレー記念館と図書館新館の洋式トイレへの取替え、デフォレスト記念館ロッカー室空調の取替え、講堂シートクッションの取替え、新社交館2階食堂およびローズルームのイス、テーブル等の更新など、キャンパスアメニティの向上を図ります。
- ・「就職率向上のための支援講座」、「フロントランナー育成のための特別講座」、「早期離職抑制のためのキャリア支援」を実施し、引き続きキャリア教育およびキャリア支援活動の充実を図って行きます。

広報力の整備、強化

- ・大学ブランディング戦略（調査、戦略策定、ホームページ、広報物の企画、デザイン等）を専門家を活用し策定します。

- ・K-CLIP（学生生活支援センターおよび国際交流センター）、大学公式サイト、入試サイト、英文学科、人間科学部の各ホームページについてセキュリティ対策およびデザイン刷新、スマートフォン等に対応した機能向上をめざし、リニューアルします。（大学ブランディング戦略と平仄を合わせ実施します。）

その他管理

- ・鍵管理システムを構築し、キャンパスセキュリティ強化を図ります。全学的プロジェクトにより推進します。
- ・重要文化財保護の観点から、法の基準にもとづき、総務館・講堂および図書館、渡り廊下に自動火災報知機を設置します。
- ・設置後30年経過したタルカット記念館研究室の空調機と照明器具、設置後20年経過したアンジー・クルー記念館の空調熱源機器取替えおよび外壁塗装を実施します。

2016年度予算書

2016年度の事業活動収支予算書の概要は次のとおりです。

教育活動収支

収入面においては、学生生徒等納付金は2015年度大学入学者より入学金を40万円から20万円に減額する一方で、授業料を年額5.5万円増額したことから、2016年度からは収入増に寄与し、前年度当初予算比20百万円の増収となります。付随事業収入は、前年度に実施した学生寮の家具（20百万円）の支出要因が剥落し、23百万円の増収を見込んでいます。一方、補助金は「私立大学等改革総合支援事業」への採択に努力するものの、36百万円の減収、雑収入は前年度5名の定年退職者があり、私学退職金財団からの交付金を受けましたが、その要因が剥落し85百万円の減収等、教育活動収入は前年度当初予算比76百万円減の47億2百万円となります。

支出面においては、上記の通り、2016年度において実施される事業計画にもとづく特別予算総額は9億66百万円となり、2015年度当初予算と比較して4億76百万円の大幅増加となりました。その大部分は、大学内ネットワークシステム、MM教室やCS教室などパソコン教室の授業支援システム、教職員および学生用のメールシステムの更改などITリプレース費用4億36百万円です。（前回のITリプレースは2011年度に実施）その結果、人件費を除く教育活動支出は4億44百万円増加します。

人件費は、前年度5名の定年退職者の退職金の支出要因が剥落し、32百万円の減少となり、教育活動支出は前年度当初予算比4億12百万円増加し、52億69百万円となります。

従って、教育活動収支差額は前年度当初予算比4億88百万円減少し、5億66百万円の支出超過となります。

教育活動外収支

資金運用については、前年度に引き続き、原油はじめ資源価格低迷、米国の利上げ後の新興国市場からの投資資金流出など、

世界経済が混沌とする中、政府日銀は、量的金融緩和策を継続することから、今年度も低金利環境が予想されるため、受取利息・配当金収入は10百万円の減収、一方、借入金の約定返済が進むことから、借入金等利息は0.9百万円減少し、教育活動外収支差額は前年度当初予算比9百万円減少の60百万円を見込んでいます。

経常収支差額

以上から経常収支差額は4億97百万円減の5億5百万円の支出超過となります。

特別収支差額

特別収入は施設設備補助金等の減により10百万円減の24百万円、特別支出はITリプレースによる除却により資産処分差額を12百万円増の24百万円を見込み、特別収支差額はほぼ均衡します。

基本金組入前当年度収支差額（旧帰属収支差額）

以上から、基本金組入前当年度収支差額は5億5百万円の支出超過となります。

基本金組入額合計

タルカット記念館、アンジー・クルー記念館、ジュリア・ダッドレー記念館、デフォレスト記念館ロッカー室の空調熱源機器工事、ジュリア・ダッドレー記念館および図書館新館のトイレ改修、学生寮シャワーユニット取替え、総務館ほか重要文化施設への自動火災報知機の設置など建物関連で1億22百万円、奨学基金充実のため2016年度まで毎年1億円を積み立てるなど第3号基本金に1億25百万円を組入れ、基本金組入額合計は前年度当初予算比1億50百万円増加の5億2百万円を計上します。

当年度収支差額

以上から、（2016年度）当年度収支差額は10億7百万円の支出超過となります。

2016年度事業活動収支予算書

(単位：百万円)

		科 目	金 額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,984
		手数料	89
		寄付金	47
		経常費等補助金	439
		付随事業収入	80
		雑収入	62
		教育活動収入計	4,702
	事業活動支出の部	人件費	2,990
		教育研究経費	1,835
		管理経費	444
		教育活動支出計	5,269
教育活動収支差額			△ 566
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	62
		教育活動外収入計	62
	事業活動支出の部	借入金等利息	1
		教育活動外支出計	1
	教育活動外収支差額		
経常収支差額			△ 505
特別収支	事業活動収入の部	その他の特別収入	24
		特別収入計	24
	事業活動支出の部	資産処分差額	24
		特別支出計	24
	特別収支差額		
基本金組入前当年度収支差額			△ 505
基本金組入額合計			△ 502
当年度収支差額			△ 1,007

(参考)

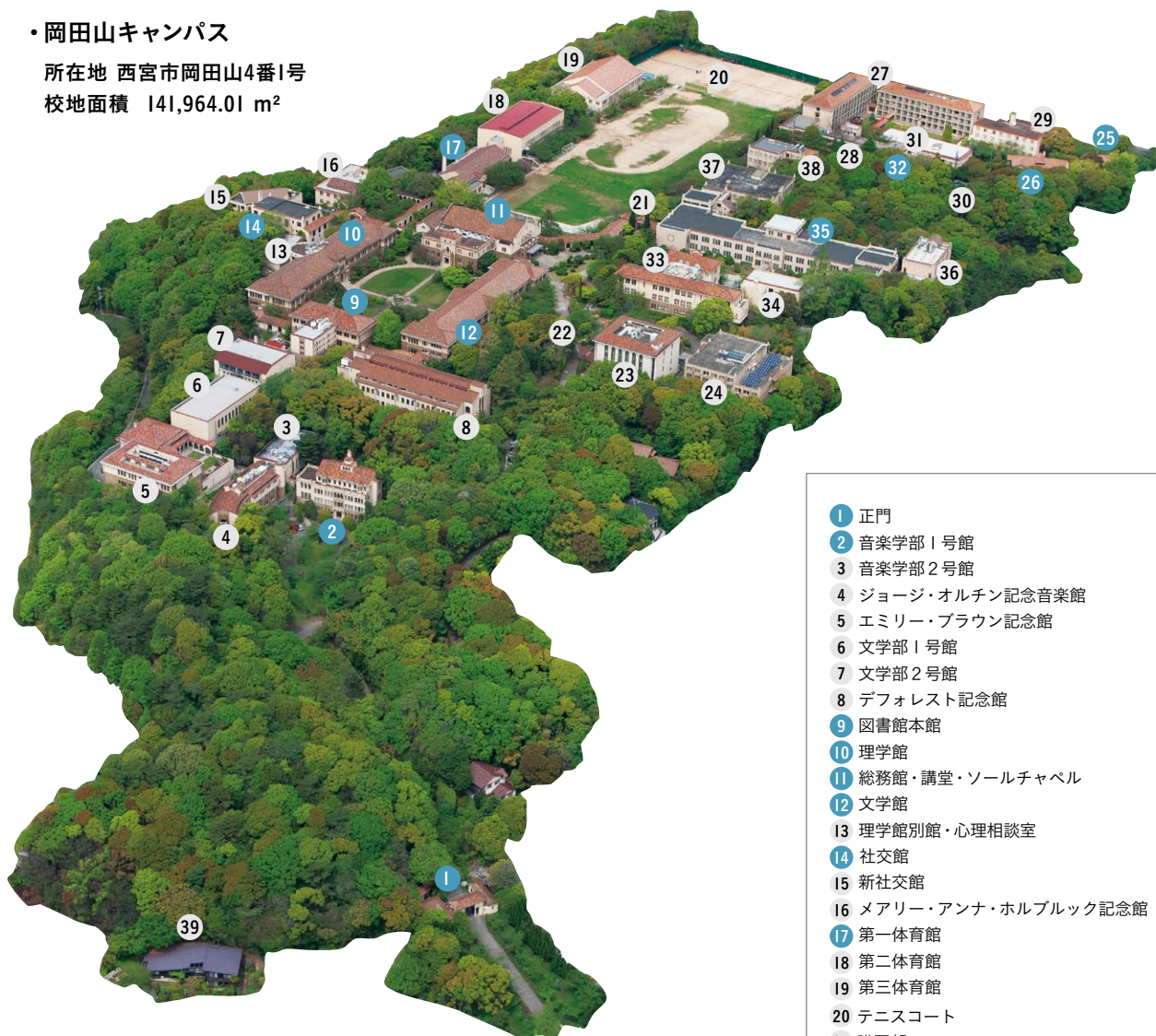
事業活動収入計	4,789
事業活動支出計	5,294

校地・校舎

・岡田山キャンパス

所在地 西宮市岡田山4番1号

校地面積 141,964.01 m²



- 1 正門
- 2 音楽学部1号館
- 3 音楽学部2号館
- 4 ジョージ・オルチン記念音楽館
- 5 エミリー・ブラウン記念館
- 6 文学部1号館
- 7 文学部2号館
- 8 デフォレスト記念館
- 9 図書館本館
- 10 理学館
- 11 総務館・講堂・ソールチャペル
- 12 文学館
- 13 理学館別館・心理相談室
- 14 社交館
- 15 新社交館
- 16 メアリー・アンナ・ホルブルック記念館
- 17 第一体育館
- 18 第二体育館
- 19 第三体育館
- 20 テニスコート
- 21 購買部
- 22 シェイクスピア・ガーデン
- 23 図書館新館
- 24 ジュリア・グッドレー記念館
- 25 エッジウッド館
- 26 ケンウッド館
- 27 メアリー・アンド・グレイス・ストウ学生寮
- 28 岡田山ロッジ
- 29 大学クローバー館(クラブハウス)
- 30 茶室(松風庵)
- 31 ミリアム館
- 32 汽罐室と煙突
- 33 アンジー・クルー記念館
- 34 コミュニケーションセンター
- 35 葆光館(中高部)
- 36 ヴァージニア・クラークソン記念館
- 37 タルカット記念館
- 38 めぐみ会館(同窓会館)
- 39 Kobe College International Students House

●は重要文化財

・東京寄宿舍クローバーハウス

所在地 東京都渋谷区大山町8-7

敷地面積 367.46 m²



〒662-8505 西宮市岡田山4-1

電話 0798-51-8508 (経理課)

<http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html>